

令和6年度事業報告書

自 令和 6年 4月 1日
至 令和 7年 3月31日

公益財団法人 **オイスカ**

目次

はじめに

1. 海外開発協力事業	1
2. 「子供の森」計画事業	8
3. 人材育成事業	14
4. 啓発普及事業	29
5. 収益事業	46
6. 組織の運営	47

は じ め に

本年は昭和 100 年、戦後 80 年という大きな節目の年にあたります。同時に国際社会はトランプ米国大統領の登場を機に、冷戦終結後の枠組みや価値観などの変化が一層顕著となりつつあり、不安定感が増していく情勢となっています。一方、昨年度も地震をはじめとする自然災害や山林火災、海洋汚染、さまざまな人災による自然環境の破壊も頻発。私たちは唯一の住処である母なる地球からの声なき声に何らかのメッセージを感じずにはいられません。

創設以来 64 年目を迎える私共オイスカの活動ですが、その担い手も第二・第三世代へと移りながらも、一貫して創立者が唱えた「物質と精神の調和した社会」の構築という遠大な目的に向かって、日々具体的な取り組みを通じ、地道ではありますが歩みを続けています。そうした活動も時には厳しい国際情勢のなかで埋没しそうな感覚に陥ることもありますが、常に原点に帰り心を奮い立たせながら、活動の基本ともいえる農業をはじめとする産業開発や環境保全、人材育成などの重要性を再確認しつつ、鋭意取り組んでいます。

さて、令和 6 年度は①海外開発協力事業、②「子供の森」計画事業、③人材育成事業、④啓発普及事業の公益 4 事業をほぼ計画に沿って推進することができました。ただ、全体的には財源の基礎となる収益の伸びが期待値に届かず、また諸物価の高騰等の影響もあって固定費がかさみ、残念ながら厳しい決算となりました。それでもこの一年間、国内外での諸活動をほぼ恙なく実施できましたのも、ひとえに長年にわたる賛助会員や支援者の皆様の心温まるご尽力の賜物であると深く感謝し、改めて関係各位に厚く御礼申し上げます。

公益法人認定法の一部改正がこの 4 月から施行されました。法人の自立性や透明性の確保がより求められるようになり、ガバナンスの向上も問われるようになっています。オイスカを取り巻く環境も年々変化をしていますが、様々な変化に対応しつつも原点を忘れず、国内外の諸課題解決に向けて取り組んでまいり所存です。国内外の期待になお一層応えていくべく、引き続きご支援ご協力、ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和 7 年 6 月

公益財団法人オイスカ

理事長 中野 悦子

1. 海外開発協力事業

総 括

アメリカのトランプ大統領の関税に関する発言が株価や為替などの世界経済に影響を与え、世界の企業業績にも影を落としつつある。当法人が受け入れる寄附金も、相対的な価値が下がり今後の事業運営の見通しが立ちにくくなっている。そのような状況ではあるが、今年度も自然再生・保全活動、海外人材育成、持続可能な産業の開発・促進を中心とした事業を推進した。

自然再生・保全活動では、自然の力を生かした社会課題解決（EBS）のアプローチを取り入れ、持続可能な森づくりを推進するため、各国で住民の生計向上を組み入れた事業を推進し、気候変動や環境破壊のリスクにも対応できるような生態系を活用した防災減災活動（Eco-DRR）を海岸地域でのマングローブ保全を中心として継続した。また、ウズベキスタンにおける沙漠緑化では、現地農業大学との協働での乾燥地における試験栽培に加え、政府や国際機関との関係性作りによる植林の普及などを経団連自然保護基金による助成などで実施した。

海外人材育成では、カウンターパートである相手国政府との協約に基づき、農業や環境に関する研修活動がアジア太平洋各地で続けられ、各国でリーダーシップを発揮できる有為な人材の育成に努めている。コロナ禍を経て研修生の総数は減少傾向にあるが、これまでに育成した研修生の OBOG が各方面で活躍している。また、従来の農業を中心とした訪日研修に加え、近年急速にニーズが高まっている技能実習や高度な技能を持つ人材の日本招聘の拠点としての機能も研修センターや現地組織が果たしている。

持続可能な産業の開発・促進では、フィリピンでの養蚕普及、拡大による伝統文化の復興、発展及び地域住民の生活向上支援事業（外務省・日本 NGO 連携無償資金協力）を実施し、フィリピン政府からも期待の大きい養蚕業の全国への普及を後押しすることとなった。また、インドでのガンジス川浄化に資する生計向上プロジェクトでは、竹炭を活用した土壌改良で農産物の質の向上を図る取り組みが継続して行われ、現地住民による竹炭生産とそれを活用した農業の促進に寄与した。

これらの取り組みから特徴的なものをいくつかを取り上げ以下に紹介する。

1. プロジェクトの実施成果

<自然再生・保全活動>

近年、豪雨や台風などの自然災害が頻発化、甚大化している中、Eco-DRR（Ecosystem-based Disaster Risk Reduction／森林などの生態系を活用した防災・減災）に主眼を置いた植林の必要性が高まっている。特に沿岸部におけるマングローブおよび海岸林樹種の植林は、海から吹く強い潮風や高潮、海面上昇による海岸線の浸食などの脅威から地域を守るためにニーズが高く、フィジー、インドネシア、フィリピン、タイ、バングラデシュ等の各国で、企業などからの支援を受けながら新規植林や補植、保全活動を行った。

また、これまでの植林地の維持管理作業も継続して実施したほか、地域住民が森からの恩恵を受けながら、その森を長く守っていけるよう、生計向上につながる住民向けの取り組みにも注力した。

令和 6 年度に新規に植林されたのは、8 カ国で約 312.7 ヘクタール、1,236,826 本となった（「子供の森」計画での植栽分含まず）。

マングローブ、乾燥地緑化、山間地での植林の 3 つの事例を紹介する。

1. マングローブ保全プロジェクト

令和 6 年度は、インドネシア、タイ、フィリピン、フィジー、バングラデシュの 5 か国で計 145 ヘクタール、99 万 8 千本の新規植林・補植および、過去の植林地の管理や持続可能

な管理・保全のための取り組みを実施。

インドネシア、フィリピンにおいては、台風や高潮の影響を受け、過去に植林したマングローブや新規に植林した苗の倒伏や流失といった被害が深刻となっている。特にインドネシアの中部ジャワでは、河川や港湾の工事による海流の変化、気候変動が一因と思われる風や波の威力の増大などによる被害が大きく、コンクリート製の消波ブロックの設置など、グレーインフラを併用しなければマングローブの保全および植林ができない地域も出てきている。今年度は、強風、高波が続いたことで、その消波ブロックでさえも破壊されてしまうほどの被害を受けており、気候変動への対応がより一層求められる状況となっている。

いずれの国や地域においても地元の行政と連携し、地域住民への啓発活動にも注力しており、植林への参画はもとより、その保全ための協力を呼びかけている。例えば、住民が放し飼いにしているヤギの食害、マングローブ林内での漁の際に船や網で苗木を傷つけてしまうといった被害も一部確認されているが、行政の協力を得ながら住民への理解を求め改善を図るといった取り組みを継続的に進めている。

フィジーでは、海岸やそこに育つマングローブを観光資源としているリゾートホテルがホテルの敷地内に植林を進めており、オイスカは苗木の提供や技術指導を行うといった連携を図っている事例もある。また、コロナ禍で下火となったエコツーリズムの回復も少しずつ進んでおり、タイでは女性グループのメンバーたちが、観光客向けにマングローブのお茶や石けんなどを作って販売するなど、マングローブ林を活用した生計向上のモデルケースとなっている。

2. ウズベキスタン沙漠化防止プロジェクト

湖が干上がり沙漠化したアラル海の湖底でのサクサウールの植林を進めるこのプロジェクトは、立ち上げ当初は10年間で4万ヘクタールの植林を目指していたが、現在は、年間10万ヘクタール規模で植林を進めている地元林業局への技術協力を行うことで、アラル海全体の緑化推進への貢献をすることを目標としている。

特にECやpHが高く、サクサウールの生育が難しいエリアは林業局の植林地から除外されており、オイスカではそうしたエリアでの緑化が可能となるようさまざまな塩害対策を講じた試験植栽を行っている。

また沙漠化により漁業や水産加工業などが衰退した同地は、現金収入を得る手立てが少なく、国外への出稼ぎを余儀なくされている住民が多いため、生計向上のための活動も欠かすことができない。今年度は国連開発計画(UNDP)と協働で、住民を対象としたニクジュヨウ栽培のセミナーを実施。ニクジュヨウはサクサウールの根に寄生して育つため、ニクジュヨウで現金収入を得るために住民が自発的にサクサウールの植林をするようになることが期待される。一方で、収穫まで3年程かかるニクジュヨウのほかにも、より早く収穫が可能となるサツマイモの普及も目指しており、試験栽培を行ったほか、来年度の普及に向けたモデル農家選定などの準備を進めてきた。

3. マイチャルーン村森林再生プロジェクト(タイ)

タイ北部のチェンライ県で今年度立ち上がったこのプロジェクトは、水源林を守り、ふるさとを守るため、100ヘクタールの緑化を目指すもので、2028(令和10)年までの5年間で、そのうちの32ヘクタールに植栽をする予定となっている。

現地では、住民との話し合いを重ねながら、育苗など植林に向けた準備を進め、8月に植林を実施。植林当日は、地域住民だけではなく、警察や軍のほか天然資源環境省、民間企業などからも多くの人たちが集まり、3,000本が植えられた。以降、下草刈りや補植、施肥などの管理活動を住民が主体となって進めているほか、森林火災対策の研修や防火帯づくりなど、森を守るための活動にも取り組んでいる。

同プロジェクトの活動資金は、日本で約1ヵ月半にわたりクラウドファンディングを行い、「森を守ることは、生活と文化を守ること」と呼びかけて集めたもの。オイスカにとつ

て、こうした形でのクラウドファンディングの実施は初めての取り組みとなった。

＜海外人材育成＞

これまで、主にアジア太平洋地域において、農村地域の農業振興や環境保全活動のリーダーとなる人材の育成に取り組んできた本事業であるが、その取り組みには様々な形態がある。当地の行政や関係機関と良好な信頼関係を築いて長期にわたり活動を続けており、日本への人材送り出し機関としても機能し始めているフィリピン・ネグロス島での活動についてここでは紹介する。

・バゴ研修センター（フィリピン・ネグロス島バゴ）

今年度、フィリピンでは、エルニーニョ現象により、干ばつで一部の地域では深刻な水不足となるなど、農業において大きな影響を受けた。バゴ研修センターでは、米や野菜の生産において、可能な限り有機農業を実践しているが、現在、フィリピン政府は農業分野で有機農業に力を入れており、センターもこの方針を支持している。

バゴ研修センターは 1981 年に近隣の農家ためのモデルファームとして活動を開始した。現在ではその役割は多岐にわたり、農業や日本語の指導、養蚕事業を通じた生計向上プログラムなどに取り組むほか、地域や日比の交流拠点ともなっている。

その中でも、州政府と協働の研修プログラムや日本人講師による日本語授業の実施、養蚕事業における農家研修など、人材育成活動に力を入れており、今年度のバゴ研修センターの研修生は、短期研修も含めると総数 265 名となった。うち農業研修プログラム 12 名、日本語コース 32 名、養蚕セミナー 53 名、被覆アーク溶接 20 名が研修を受けたほか、農業関係の国家資格受験につながる研修を近隣の高校の学生 148 名に対して実施した。

農業研修プログラムでは、研修生たちは稲作や蔬菜栽培を中心に学びながらも、センター内で行われている養蚕にも携わり蚕飼育、桑畑管理を学んだり、日本語や日本の習慣なども学んだりしており、日本での研修に進むこともできる。日本語コースでは、平日 1 日 6 時間の日本語の授業で一から日本語を学ぶ。日本語コースを終えた研修生は、日本の企業で働くなど、将来の進路へとつながっている。

＜持続可能な産業の開発／促進活動＞

途上国においても生活様式が多様化する中、生計向上への様々な選択肢を提供し、環境と調和しながら進める持続可能な産業の育成は、世界中でニーズが高まっている。特別な技術を必要とせず、ある程度の勤勉さをもって実践すれば自ずと生活していけるような土から離れない産業を現地の方々に紹介、導入し取り組んでもらい、その結果として自然環境も守られるよう実践している。本年度も以下のような取り組みが進められたので紹介する。

1. 養蚕普及・拡大による伝統文化の復興・発展及び地域住民の生活向上支援事業（フィリピン）

外務省 NGO 連携無償資金協力の支援を受けて実施した本プロジェクトはネグロス養蚕事業の実績を評価した政府関係機関のフィリピン繊維研究所 (PTRI) からの支援要請を受けて始めたもので東ミサミス州、ベンゲット州、ヌエバビスカヤ州を対象地としている。事業対象地の 3 州は過去に養蚕地帯として栄えたこともあり現在でも養蚕技術を有する年配の女性らが僅かにおり助言等を行っている。養蚕についての基礎的知識及び技術習得において東ミサミス州の新規農家 30 名に対し 3 回に分けてネグロス島のバゴ研修センターでの研修を実施した。参加した農家は研修センターでは指導員の分かりやすい指導や技術力を高く評価した。一方ベンゲット州とヌエバビスカヤ州は PTRI が中心となって新規の農家と既存の農家に対し定期的にセミナーや実習を行い良質繭生産のための能力向上を図った。施設整備計画においては壮蚕所を東ミサミス州 2 棟、ベンゲット州 5 棟、ヌエバビスカヤ州 1 棟の計 8 棟を建築し設置。また東ミサミス州においては州立大学も参加して桑苗と蔬菜苗の育苗を目的としたビニールハウス 1 棟と桑園及び蔬菜畑の渇水用発電を目的としたソーラ

一システム 2 基を設置した。事業開始当初は前年からのエルニーニョ現象により特に東ミサミス州では年末から 5 月上旬までの約半年間にかけて殆んど降雨が見られず、またベンゲット州及びヌエバビスカヤ州でも新たに植栽した桑苗の生長が遅れるなどの影響を受けた。一部既存の農家では壮蚕が可能だったものの蚕が最も桑を食する 5 令期に与える桑が足りず、蚕が繭を形成するまでに至らなかった事例も報告された。新規農家においてはさらに桑の生長が遅く多くの農家が一回も蚕を飼うことが出来なかった。こうした影響は壮蚕所建築開始の遅れにもつながりベンゲット州では全ての壮蚕所が完成したのは 3 月末で、事業期間内にようやく間に合ったという状況である。

目的とした養蚕農家の増大に伴う繭生産の増量、さらに優良な生糸生産と機織りによる伝統文化の復興までは到底達成できていない。気候変動の影響によるところが大きいと思われるが、一方でヌエバビスカヤ州では夫婦揃ってそれぞれの大学と高校で教鞭をとりながら養蚕の普及に自ら努力して取り組んでいるオイスカの研修生 OBOG の存在も明るい話題として出てきている。今後は彼らとの連携も密に図りながら引き続き目標に向けて地道な努力を重ねていくことが肝要であると捉えている。

2. ガンジス河流域村における水・土・森の自然資源共生型農業技術普及による持続可能な生計向上支援プロジェクト（インド）

JICA 草の根技術協力事業として令和 5 年度より開始した「ガンジス河流域村における水・土・森の自然資源共生型農業技術普及による持続可能な生計向上支援プロジェクト（草の根パートナー型）」を継続して実施した。本事業は、ウッタル・プラデシュ州バラナシに位置するガンジス河流域の 3 つ村の住民を対象に、竹炭など自然資源を活用した農業技術の導入による生計向上・生活環境改善を目標としている。

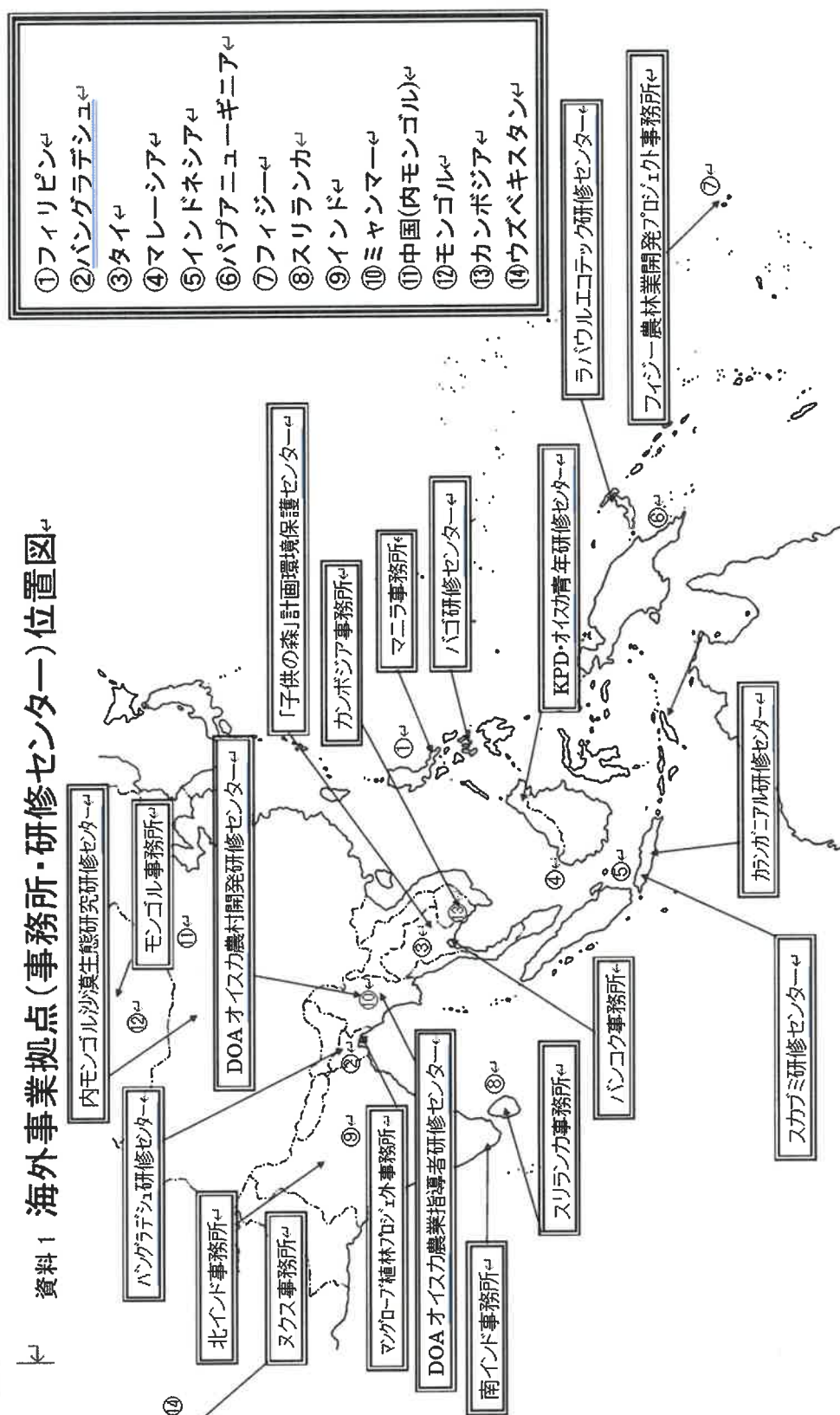
竹炭を取り入れた農業と果樹・ハーブの植林を行い、それによって得られた農作物の販路開拓をすることで、環境を保全しながら所得向上を目指す。同時に、ガンジス河の汚染の深刻化という背景がある中で、自然資源の持続可能な活用の必要性に対する住民の理解を深めるねらいがある。

今年度は、竹炭づくりや窯づくりを専門家の指導の下で行いながら、技術習得を進めて、現地の住民のみで炭の生産を実施できるようになった。畑へ竹炭を投入した試験栽培も 5 軒の農家で開始した。炭の活用方法や土壌に取り入れた場合の効果について住民が理解を深められるようセミナーを開催し、3 つの村で総計 242 名の住民が参加した。さらに環境問題への意識向上を目的とした啓発プログラムも実施し、児童 140 名、住民 121 名が参加した。また 3 村で総計 535 本の果樹ハーブを植林し、竹炭や有機堆肥を活用しながら行う栽培を開始した。今後は竹炭の生産・活用を住民で担えるようにしながら、栽培した作物の販路開拓を進める。

3. 熱帯林保全プロジェクト（パプアニューギニア）

COSMO エコ基金（旧コスモエコカード基金）の支援を受けて実施してきた本プロジェクトは、近年急速に減少しているパプアニューギニアの熱帯林を保全するため、森林減少対策のモデルケースづくりとその普及を目指して実施してきた。現地森林減少の二大要因の一つである焼き畑に対してはそれに代わる農法として定置型有機農業の普及を目指し、青年に対する農業研修の提供の他、現地資材を活用した新たな肥料等の開発と普及、精米機や農業倉庫などのインフラ提供などを実施。またもう一つの大要因である伐採業者による強引な土地の侵奪や伐採行為に対抗するため、熱帯林を保護区として登記するための活動を実施してきた。その他にも自生樹種や換金樹種の植林、女性のエンパワーメント研修、刑務所やその元服役者への農業指導など、様々な角度からのアプローチを実施し大きな成果を上げてきた。2002 年から実施してきた本プロジェクトはこの度 2024 年度をもって基金からの支援が終了となったが、今後は現地主導のもと東ニューブリテン州政府や国連機関などからの支援を活用し、引き続きサポートを実施していく。

資料 1 海外事業拠点(事務所・研修センター)位置図



資料2 海外駐在員派遣リスト

駐在員

	氏 名	担当業務
--	-----	------

インドネシア

1	加 納 達 也	運営管理
2	和 泉 守	運営管理

フィリピン

3	渡 辺 重 美	運営管理
4	石 橋 幸 裕	運営管理

タイ

5	春 日 智 実	運営管理
---	---------	------

パプアニューギニア

6	荏 原 美 知 勝	農業技術指導・調整
---	-----------	-----------

フィジー

7	ジ ョ セ リ ソ マ ト ソ ン ハ イ	調整・渉外
---	-----------------------	-------

調整員（本邦を拠点とし出張派遣）

	氏 名	担当業務
--	-----	------

ウズベキスタン

8	富 樫 智	運営管理
---	-------	------

バングラデシュ

9	小 杉 辰 雄	運営管理
---	---------	------

インドネシア

10	中 垣 豊	運営管理
11	中 垣 ア ダ	運営管理

資料3 海外事業拠点別 現地スタッフ及び、受入研修生数

No	国 名	センター・事務所	現地 スタッフ	研修生
1	バングラデシュ	バングラデシュ研修センター	8	－
2		マングローブ植林プロジェクト事務所(チッタゴン)	3	－
1	インド	南インド事務所	11	－
2		北インド事務所	7	－
1	インドネシア	スカブミ研修センター	38	17
2		カラングニアル研修センター	7	20
3		駐在員事務所	1	－
1	マレーシア	KPD-オイスカ青年研修センター	22	58
1	モンゴル	モンゴル事務所	4	－
1	ミャンマー	DOA オイスカ農村開発研修センター	20	0
2		DOA オイスカ農業指導者研修センター	13	10
1	フィリピン	マニラ事務所	5	－
2		バゴ研修センター	14	212
3		ヌエバビスカヤ植林プロジェクト	2	－
4		パラワン研修センター	4	0
5		アブラ農林業研修センター	5	20
6		ヌエバエシハ研修センター	2	13
1	スリランカ	スリランカ事務所	5	－
1	タイ	北部タイ緑化プロジェクト(チェンライ)	3	－
2		マングローブ・プロジェクト(ラノー)	3	－
3		「子供の森」計画環境保護センター(スリン)	1	－
4		「子供の森」計画(コンケン)	1	－
5		バンコク事務所	5	－
1	カンボジア	カンボジア事務所	3	－
1	フィジー	フィジー農林業開発プロジェクト事務所	6	19
1	パプアニューギニア	ラバウル・エコテック研修センター	15	－
1	中華人民共和国	内モンゴル沙漠生態研究研修センター	2	1
1	ウズベキスタン	ヌクスオフィス(カラカルパクスタン農業大学内)	9	－
合 計			219	369

*現地スタッフとは、法人の直接雇用ではなく個別プロジェクトのニーズに見合う臨時雇用者を現地採用しているスタッフ

2. 「子供の森」計画事業

1. 総括

2024 年、気候変動と生物多様性の損失が世界規模で深刻化する中、国際社会では持続可能な未来に向けた取り組みの加速が強く求められている。2024 年 10 月に開催された生物多様性条約第 16 回締約国会議（COP16）では、アントニオ・グテーレス国連事務総長が「自然との平和を築くことが 21 世紀の決定的課題である」と述べ、各国に対して、「言葉を行動に変えるべき」と具体的行動を呼びかけた。生態系と社会課題が相互に関連する中、地域レベルでの取り組みを通じ、行動に移すことの重要性が増している。

活動国においても、干ばつや洪水、山火事、異常高温といった自然災害が頻発し、子どもたちの生活や教育環境にも影響を及ぼす中、「子供の森」計画（以下、CFP）は、自然とともに生きる価値を次世代に伝える取り組みとして、植林を軸とした環境教育を継続・発展的に実施。環境面のほか、物価の上昇や社会情勢の不安定化といった社会的課題も重なる中でも、現地の教員、保護者、地域住民、行政などの協力により、子どもたちが自然にふれ、育て、学ぶ機会を各地で維持することができた。2024 年度には新たに 98 校が仲間入りをし、1991 年の事業開始からの累計参加校は、5,670 校となった。

緑化の面においては、15 の国と地域の 485 の学校とコミュニティが参加。樹種の工夫や水資源の活用、補植などの対応を通じて補植による生存率向上の工夫がなされ、環境条件に応じた持続的な緑化活動が試みられた。その成果は、緑化面積だけでなく、果樹の植栽やアグロフォレストリーの実践、育てた森を活かした各種プログラムによって、子どもたちの栄養改善、学校収入の補完、地域への広がりといった多面的な価値をもたらしている。また、ごみ分別や学校菜園、自然観察などの実践を通じて、子どもたちが環境問題を自分ごととして捉える姿勢が育まれている。活動の波及は学校内にとどまらず、保護者や地域住民も巻き込む形で、地域ぐるみの取り組みへと広がりを見せている。グローバルな気候危機の中、未来を担う子どもたちが地域の自然に根ざした実践を通じて、環境に配慮した行動を身につける機会を保障することは、将来の持続可能な社会づくりにとっても重要である。各地の経験や工夫を活かしつつ、今後も CFP が多様な地域と世代をつなぐ取り組みとして発展していくことが期待される。

また、担い手の育成・連携強化を目的に、10 月には日本国内において 4 か国（インドネシア、マレーシア、ミャンマー、タイ）から 6 名のコーディネーターを招いて研修を実施。日本各地での森林保全や環境教育を学ぶとともに、国を越えたネットワーク構築を図った。次世代のコーディネーターの育成として、オイスカの訪日研修生に対する研修も強化している。さらに 5 月には、タイおよびインドネシアの子ども親善大使と指導者を招聘し、日本各地で報告会や交流、トークイベントを行った。子どもたち自身が自国の活動を伝える機会となり、支援者や市民との相互理解の促進にもつながった。

支援者の方には、各国の活動レポートに加えて、CFP 全体の取り組みや成果を紹介するニュースレターやカレンダーなどをお届けし、活動への理解と関心を深めていただけるよう努めた。こうした広報活動も後押しとなり、2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）の支援口数は 5,759 口、寄附金（企業・団体・個人を含む）の総額は 48,218,157 円となった。活動の実施にあたっては、現地のニーズや体制を踏まえ、バングラデシュ、カンボジア、フィジー、インド、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、モンゴル、フィリピン、パプアニューギニア、スリランカ、タイで重点的に事業を展開した。

2. 各プロジェクト実施成果

① 課題に向き合い、地域と進める森づくり

2024年度は、15の国と地域における458校と27のコミュニティで緑化活動を展開した。地球温暖化による干ばつや豪雨などの影響が各国で続くなか、植林のタイミングや樹種の選定、ペットボトルを使った灌水システムを導入するなどの工夫を通じて、苗木の定着率向上を図った。乾燥の厳しいミャンマーやインドネシアの活動地には助成金（インドネシア：国土緑化推進機構・緑の募金、ミャンマー：TOTO 水環境基金）を活用して雨水貯蔵設備を導入し、水資源を確保しながら緑化を促進した。校内に十分な植林スペースがない学校からの参加ニーズも増えており、解決策として、各地にて政府、民間企業、寺院、地域社会と協力して、学校外での活動を進めるなど、地域資源を最大限に活用する工夫が見られた。スリランカでは、国立青年サービス委員会（NYSC）との協働のもと、同委員会が運営する研修センターや国内各地の学校で植林活動が実施され、苗木の提供も受けるなど、行政との連携が着実に進展している。また、他の国々でも地元企業が苗木を拠出する事例が見られるようになっており、少しずつではあるもののCFPの取り組みを支える協力の輪が広がりつつある。

フィリピンでは、特に植林ニーズの高い北部ルソンをモデル地域とし、過去の経験を踏まえた森づくりに力を入れている。この地域では、1990年代にCFPの活動初期に植えられた早生樹が成長してきたものの、強風に弱く、台風などの影響で倒木が相次ぐケースも見られるようになっている。今後は、新規の植林とあわせて、生物多様性や防災・減災の観点を取り入れた樹種の見直しや再植林が重要な課題となる。一方で、かつての植林により改善された土壌環境が、新たな樹種の定着を可能にしており、長期的に見た森林再生の基盤が着実に育ってきている。

生物多様性に関する象徴的な取り組みとしては、5月22日の「国際生物多様性の日」にあわせたグリーンウェイブ活動を国連生物多様性条約事務局（SCBD）との連携のもと継続して推進した。2024年度は、13の国と地域で263の学校や地域が参加し、各地の郷土樹種の植樹や、生物多様性に関するセミナーなどが実施され、延べ9,531名が参加した。

② 自然とともに学び、行動の芽を育てる

2024年度、CFPに参加する各地の学校では、植林に加えて、子どもたちが身近な自然や生活と向き合う実践的な環境教育活動が数多く行われた。とりわけ学校菜園やごみの分別、再利用などの取り組みは、学びの成果が日常生活に直結しやすく、教室の外で五感を使って学ぶ貴重な機会となっており、児童・生徒の関心も高い傾向が見られた。

菜園活動では、地域にある堆肥資材（落ち葉、牛糞など）を活用したり、農業に頼らない方法を学ぶことで、環境にやさしい農業の考え方を楽しみながら身につけている。また、ごみの分別や再利用に関する活動も広がりを見せている。タイでは「ごみの銀行（Garbage Bank）」という仕組みを導入し、子どもたちが回収したリサイクルごみを学校で計量・交換する仕組みが進められている。こうした取組は、子どもたちに資源循環や経済の視点もあわせて教える機会となっており、自宅での分別や家族への発信にも波及している。

環境教育の広がりの中で、近年では収穫物の活用にとどまらず、活動の中で生まれた「CFPプロダクト」の製作・販売も進んでいる。果樹や野菜の販売に加え、葉や草花を使ったエコ

プリント、手づくりの有機肥料、ハーブの加工品、リサイクル素材を使った小物などが子どもたちの手によって生み出され、学校のバザーや地域のイベントなどで販売されている。これらの活動は、子どもたちの創造力や学びを実感に変えるだけでなく、少しずつ学校や地域の収入源ともなり、活動の継続意欲を支える要素として根づき始めている。

こうした体験的な環境教育は、単なる知識の習得にとどまらず、子どもたちが自分の暮らしの中で環境に優しい行動を実践するきっかけとなっている。ごみの分別が家族の習慣になった、育てた野菜を家庭でも植えるようになった、というような声も多く寄せられている。教育資源や時間に限りのある地域においても、「教室を出た学び」の価値が見直されており、コーディネーターや教員の工夫を通じて、子どもたちの環境への理解と行動変容が、着実に広がっている。

なお、治安や社会情勢により活動への制約が続くミャンマーでは、比較的安定した地域において、TOTO 水環境基金の助成を受けたプロジェクトを実施。学校の水環境や衛生設備の改善を通じて、より質の高い環境教育の実施を目指した。11 校での植林・環境学習活動のほか、雨水貯蔵設備（1 校）、トイレ（1 校）、苗床（2 校）、焼却炉（2 校）の設置といった設備整備も行われ、のべ 2,772 名が参加。雨水を活用した菜園づくりや緑化活動が安定的に実施できるようになったほか、学習環境や衛生面の改善にも大きく寄与した。さらに、有機農業の実践指導や教員向けセミナー、エコキャンプを通じて、子どもたちだけでなく、教職員や保護者、地域住民にとっても環境意識と実践力を高める機会となった。なお、2025 年 3 月に発生した地震により、被害が確認された学校もあり、今後も継続的な調査とフォローアップを進めていく。

③ 活動をつなぐ力を育てる

CFP の活動は、子どもたちだけで完結するものではなく、現場で日々の活動を支えるコーディネーターや教員、地域の大人たちの存在こそが、その根幹を支えている。その一方で、参加国の多くでは高齢のコーディネーターの負担増や、若手の定着が進まないといった課題を抱えている。2024 年度は、こうした担い手の育成と連携強化を目的とした研修や人材交流にも注力した。インドネシア、フィリピン、ミャンマーでは、コーディネーターや教員向けの環境教育セミナーを実施し、各地や各校における成果や課題を共有するとともに、授業に取り入れられる実践的なプログラムを紹介する場を設けた。

また 2018 年以来となる国際コーディネーター研修を再開。2024 年 10 月 19 日から 30 日にかけて、インドネシア、マレーシア、ミャンマー、タイの 4 か国から、CFP コーディネーター 6 名を日本へ招聘した。愛知、岐阜、宮城、東京にて、森林の保全やモニタリング、子どもたちが森や自然に親しみ、豊かさを体感できるようなプログラムづくりについて学びを深めたほか、各地で報告会も開催した。参加者からは、「学んだ事例やアイデアを自国に応用したい」「同じ想いで努力し、課題に取り組む仲間と出会えてモチベーションがあがった」といった声が寄せられ、研修を通じて CFP への想いを新たにしている様子が見ええた。既に現地の状況に応じた実践も始まっており、国を越えたさらなる連携と学びの継続が期待される。こうしたコーディネーターに対する研修会のほか、日本国内のオイスカ研修センターで学んでいる研修生に対しても講義や研修を行い、コーディネーター候補を育てていくことにも引き続き取り組んでいる。

④ 子どもたちによる発信と国を超えた交流

2024年度、「子供の森」計画では、国を越えて学び合い、発信する機会として、子ども親善大使事業と支援企業・団体による現地訪問型のボランティアツアーを実施した。いずれの取り組みも、活動の意義や成果を共有するだけでなく、立場や国を超えた相互理解と信頼関係の構築に大きな役割を果たしている。

5月15日から22日には、タイとインドネシアの活動地域から子ども親善大使と指導者、計6名を日本に招聘。北海道・大阪府・兵庫県を訪問し、学校交流（札幌市立厚別西小学校、札幌市立和光小学校）、日本における環境保全や防災教育の取り組みの視察、そして支援企業や自治体、地域住民を対象とした報告会を行った。5月19日に開催したトークライブでは、活動に取り組む子どもたちが、環境課題への気づきや活動の学びを直接語り、コーディネーターとともに地域の現実と取り組みの背景について紹介。会場およびオンラインで広く共有され、参加者からは「現場のリアルが伝わった」「子どもたちの表情や語りから、取り組みへの誇りや成長が感じられた」との声が寄せられた。帰国後、親善大使たちはそれぞれの学校や地域で活動報告を行い、同世代の仲間や地域住民に向けた発信の機会を持つなど、学びの循環を生み出している。

一方、日本から支援を行う企業・団体の関係者が、活動現場を訪れるボランティアツアーも複数実施。2024年度は複数の支援者がフィールドを訪れ、子どもたちとの交流、苗木の植栽や管理作業、現地スタッフとの意見交換などを通じて、プロジェクトの意義や現場の課題に対する理解を深めた。こうした交流の機会は、子どもたちやコーディネーターにとっても励みとなり、国や立場を越えたつながりと信頼関係を育む土台となっている。リアルな対話とふれあいを通じて、活動への共感と支援の輪が育まれている。

期間	支援企業・団体名	訪問先
2024年5月27日～6月5日	電力総連	フィリピン（ヌエバビスカヤ）
2024年7月5日～7月9日	国土緑化推進機構	フィジー（ビチレブ島）
2024年7月17日～19日	京セラ労働組合	フィリピン（パラワン）
2024年8月3日～8月4日	前田建設工業	タイ（チェンライ）
2024年8月20日～24日	オイスカ国際活動促進国会議員連盟	スリランカ（コロンボ、クルネーガラ、キャンディ）



トークイベントにて、会場からの質問に答える子ども親善大使たち



国際コーディネーター研修にて、木々などの様子から、森の健全な状態を判断する「森の健康診断」を学ぶ

3. 2024 年度「子供の森」計画 国別植林実績

No.	活動実施国名	2024 年度		1991 年～ 累積		参加校数 総計	2024 年 新規 校数
		植林本数	植林面積 (ha)	累計本数	累計面積 (ha)		
1	バングラデシュ	700	0.44	92,538	73.11	242	3
2	中国(内モンゴル)	30,000	8.00	320,910	107.60	18	0
3	カンボジア	1,650	1.30	20,310	26.65	83	2
4	フィジー	7,430	2.52	824,358	604.00	71	3
5	インド	3,830	1.92	1,791,239	1246.57	2,183	43
6	インドネシア	21,674	11.35	541,814	623.00	476	9
7	マレーシア	538	0.55	91,617	87.17	245	2
8	ミャンマー	712	0.28	45,616	20.62	95	1
9	フィリピン	16,597	4.41	3,001,091	1116.65	1,199	10
10	パプアニューギニア	342	1.40	85,147	58.58	93	3
11	スリランカ	4,260	3.41	522,197	436.96	367	3
12	タイ	2,612	3.56	691,284	453.32	240	5
	*その他の国・地域	11,527	6.17	193,847	141.03	358	14
合計		101,872	45.31	8,221,968	4995.26	5,670	98

累計実績：37 の国と地域の 5,670 校で実施

※上記データは 2025 年 3 月末時点。

参加校数は、新規植林実績のある学校に加え「子供の森」計画に参加した学校すべての総計

※ その他の国・地域：

アフガニスタン、アルゼンチン、アゼルバイジャン、ブラジル、エチオピア、ホンジュラス、香港、イスラエル、日本、ケニア、メキシコ、モンゴル、ネパール、パキスタン、パラオ、パレスチナ、パラグアイ、台湾、東ティモール、トンガ、UAE、アメリカ、ウルグアイ、ウズベキスタン、ベトナム



森林の伐採が進み、水源林が消えてはげ山になったふるさとの自然環境を改善するために植樹を進める（タイ・チェンライ県）

雨水貯蔵設備（写真左の緑色のタンク）を設置した学校では、タンクに貯まった水が菜園活動にも役立てられた（ミャンマー・ピョーボエ郡）

4. 調査研究、専門家、指導員派遣

1)

期 間：2024 年 5 月 27 日～6 月 5 日

派遣国：フィリピン（マニラ、ヌエバビスカヤ）

派遣者：諸江葉月

内 容：電力総連第 26 回人間と地球のふれあいセミナー同行

2)

期 間：2024 年 7 月 2 日～7 月 9 日

派遣国：フィジー

派遣者：林久美子

内 容：国土緑化推進機構 緑の募金運営委員による評価同行

3)

期 間：2024 年 11 月 14 日～11 月 23 日

派遣国：インド

派遣者：中野悦子、木附文化

内 容：グローバルサミット参加、CFP 校視察、業務調整

4)

期 間：2025 年 2 月 3 日～2 月 11 日

派遣国：フィリピン（アブラ、南イロコス）

派遣者：諸江葉月

内 容：CFP 校視察、CFP 関連業務調整等

3.人材育成事業

総 括

2024年度の国内3研修センター（中部・四国・西日本）が受け入れた研修生は国際ボランティア、農業一般、家政、農業指導、地域開発の各コースに16か国53名だった。かつて農業分野においてはフィリピンやマレーシア、そしてインドネシアが全体の3分の1以上を占めていたが本年度はそれぞれ2、3名であった。最近の傾向としてそれらの国々の急激な経済発展によるところが大きくIT分野等の技術発展は若者の関心が工業分野に向い農業への関心が薄らいできているのも理由の一つとして考えられる。ただ、未だ農業による国づくりに力をいれているパプアニューギニアや東ティモールなどは今後も国内研修センターへの研修生派遣に大きな期待を寄せている。こうした国々からの要請に応えていくためにも研修生受け入れのための財源確保は最優先されるべき課題でもあり今後も一層の取り組みが必要とされている。当初より研修費全額負担による研修派遣をおこなってきた東ティモールなどは日本側の理解者からの協力を得るなどの努力をしていることから今後新たな希望国においては一部派遣側負担による受け入れを条件とすることとしている。

また、研修期間については中部日本研修センターでの研修期間を1年から2年への変更した研修生が本年度初めて修了した。修了した研修生たちは一様に気候に左右される作物栽培の経験が違う条件下で2年続けて行うことができたことは大変有益だった。また日本語能力もさらに高まり研修内容も容易に理解でき、また地域の人達との交流において会話を通じた日本の歴史や文化等についてもスムーズに理解することができたことで日本への理解が一層深まったなどの高評価であった。ただ全ての研修生が長期を希望するわけではなく、事情によっては数か月のみを希望する研修生も出てくることも予想される。そうした要望に対して受入財源の厳しい国内研修センターとして柔軟な受け入れ対応が出来るか否かは今後の研修センター運営にも大きく影響していくことが予想される。

一方、2024年度の技能実習生の受入状況においては、新たに派遣を希望する国や実習生の数も増加しており本年度の実績では関西研修センターを中心にフィリピン、マレーシア、インドネシア、ミャンマー、ベトナムからの新規及び継続受入が合計5か国328名だった。日本の産業分野における人材不足の影響も反映して人材の受け入れを積極的に進めている企業等からの問い合わせも多く、研修センターで完結する一般研修とは逆の受入傾向である。また近年では技能実習終了後の特定技能への移行について実習生及び受入企業側からの希望が多く、毎年増加している。さらに会員企業ではIT分野等で「技術・人文知識・国際業務」ビザとして技術者受入の相談も増えてきているが法人としては定款上、特定技能同様、受託事業の受入対応に留めている。

こうした動きは今後さらに高まっていくこと予想されるが、そのためには研修センターの財源確保と同様、担当職員の確保と育成が最優先されるべき課題であることに変わりはない。また、技能実習生制度は代替制度として育成就労制度に変更されることが2024年6月、政府において改正法が可決・成立した。新制度については具体的内容について未だ確認ができていない点も多々あるが、法人として本制度に向けた対応策を随時進めている。最後に、研修センター支援連携サミットが関西研修センター主催で11月29日（金）にCIVI北梅田研修センターで実施された。「財政健全化10ヵ年計画」の進捗状況、人材確保の具体的取り組み、技能実習制度に代わる育成就労制度への対応等について本部の担当者、各研修センター所長、支部会長を始めとした関係者と協議した。活発な意見が交わされ、取り組むべき課題に対する共通認識が図れた。なお、これまで各研修センター持ち回りで毎年実施しており、今回で全ての研修センターで実施されたことになる。

1) 一般研修事業

① 研修員受入状況（国別および研修科目別）

国 別 研 修 科 目	バ ン グ ラ デ シ ュ	カ ン ボ ジ ア	フ イ ジ ー	イ ン ド	イ ン ド ネ シ ア	マ レ ー シ ア	メ キ シ コ	モ ン ゴ ル	ミ ヤ ン マ ー	パ プ ア ・ ニ ュ ー ・ ギ ニア	フ ィ リ ピ ン	東 テ ィ モ ー ル	ウ ズ ベ キ ス タ ン	チ ベ ット （ イ ン ド ）	ス リ ラン カ	ウ ク ラ イ ナ	合 計
国際 ボラ ンテ ィア				1												1	2
農業 一般	1	2	4	4	3	2		2	1	3	3	2	1	2	3		33
家政						2					2						4
農業 指導						1				2							3
地域 開発			2		3	2	1		1		1				1		11
合計	1	2	6	5	6	7	1	2	2	5	6	2	1	2	4	1	53

② 本年度研修員氏名一覧

No	氏 名	国 名	科目(委託先)	期間
中部日本研修センター(15名)				
1	Mr. Babu Rahadul Hoque	バングラデシュ	農業一般	2023. 3～2025. 2
2	Mr. Thomas Sonu	インド	国際協力ボランティア	2023. 3～2025. 2
3	Mr. Chirakkal Abhishek	インド	農業一般	2023. 3～2025. 2
4	Mr. Kayat Sean Yuji	フィリピン	農業一般	2023. 3～2025. 2
5	Mr. Kaikmata Benjamin Navona	PNG	農業一般	2023. 3～2025. 2
6	Ms. AMANTE ANGEL HOPE	フィリピン	家政	2023. 8. 2～
7	Mr. Jacob Francis	PNG	農業指導	2024. 1. 30～
8	Mr. Saunivalu Patrick Tokatokavanua	フィジー	農業一般	2024. 1～2024. 10
9	Mr. Saidin Faizel	マレーシア	農業一般	2024. 1～2024. 3
10	Ms. Plotianska Olesia	ウクライナ	国際協力ボランティア	2024. 2～2025. 2
11	Mr. Ariel Pratama Latief	インドネシア	農業一般	2025. 2. 11～
12	Mr. Padikolly Shyam Sundar	インド	農業一般	2025. 2. 12～
13	Mr. Dissanaya Mudiyansele Ramesh Gihan Senarathna	スリランカ	農業一般	2025. 2. 12～
14	Mr. Lozano Jayson Pollante	フィリピン	農業一般	2025. 2. 11～
15	Ms. Jovanha Mee Dato-On	フィリピン	家政	2025. 2. 11～
四国研修センター(11名)				
16	Ms. Noer Amalia Aam	インドネシア	地域開発	2024. 1～2024. 12
17	Ms. Vasiti Mause	フィジー	地域開発	2024. 1～2024. 12
18	Ms. Severinus Sherlynie	マレーシア	地域開発	2024. 1～2024. 12
19	Mr. Pyae Phyo Aung	ミャンマー	地域開発	2024. 1～失踪
20	Ms. Olaya Trujillo Nancy	メキシコ	地域開発	2024. 1～2024. 12
21	Mr. Julius Joel Allyson	マレーシア	地域開発	2024. 1～2024. 12
22	Mr. Saunivalu Rafaele	フィジー	地域開発	2025. 2～
23	Ms. Cholifatun Nurul Imani	インドネシア	地域開発	2025. 1～
24	Ms. Rathnayake Mudiyansele Anuththara Maduwanthi Rathnayake	スリランカ	地域開発	2025. 1～
25	Mr. Bagaporo Gilbert Andres	フィリピン	地域開発	2025. 1～
26	Mr. Naufal Muhamad Arya	インドネシア	地域開発	2025. 1～
西日本研修センター(26名)				
27	Mr. Tokalau Josateki Naqovu	フィジー	農業一般	2023. 2～2024. 10
28	Mr. Jifree Jonathan	マレーシア	農業指導	2024. 1～2025. 3
29	Mr. Wasika Benny Sozu Muramuchsu	PNG	農業一般	2024. 1～2025. 3

30	Mr. Mati Wesley Rubenet	PNG	農業一般	2024. 1～2025. 3
31	Ms. Babu Johnson Diya	インド	農業一般	2024. 1～2025. 3
32	Ms. Sitanggang Calaudia	インドネシア	農業一般	2024. 1～2025. 3
33	Mr. Hay Hakvichanouk	カンボジア	農業一般	2024. 1～2025. 3
34	Mr. Tsering Sangyal	チベット	農業一般	2024. 1～2025. 3
35	Mr. Alberto Sebastião	東ティモール	農業一般	2024. 1～2025. 3
36	Ms. Karolina Lenikauloa	フィジー	農業一般	2024. 2～2025. 3
37	Mr. Culala Joyson El Magtalas	フィリピン	農業一般	2024. 1～2025. 3
38	Mr. Thant Zin Lin	ミャンマー	農業一般	2024. 1～
39	Mr. Gantumur Tsengelbayar	モンゴル	農業一般	2024. 1～2025. 3
40	Mr. Dosnazarov Ilkham Ruslanovich	ウズベキスタン	農業一般	2024. 1～2025. 3
41	Mr. Nandre Max	PNG	農業指導	2025. 1～
42	Ms. Jamlan Fadzrinah Ganti	マレーシア	家政	2025. 1～
43	Ms. Angel Glory Payar	マレーシア	農業一般	2025. 1～
44	Mr. Tawake Aseri	FIJ	農業一般	2025. 2～
45	Ms. Ayumi Herlambang	IDN	農業一般	2025. 1～
46	Ms. Thevar Kandiyil Aysha Nasir	IND	農業一般	2025. 1～
47	Mr. Aht Poosen	KHM	農業一般	2025. 1～
48	Mr. Kulasooriya Arachchige Ishiwara Uthpala Bandara Kulasooriya	スリランカ	農業一般	2025. 1～
49	Ms. Wijethunga Minsandi Tarini Methanga	スリランカ	農業一般	2025. 1～
50	Mr. Bayarsaikhan Bayarmaa	モンゴル	農業一般	2025. 1～
51	Mr. Gyaltsen Norbu	チベット	農業一般	2025. 2～
52	Mr. Sergio Junior Siswo Ximenes Valentino	東ティモール	農業一般	2025. 1～
関西研修センター(1名)				
53	Ms. Maxivelynn Elvia Binti Marosin	マレーシア	家政	2022. 5～2024. 6

2) 技能実習事業

① 農業技能

No	氏 名	国 名	委託先	期間
耕種農業(施設園芸) 7名				
1	Mr. Doculan Meljun Viernes	フィリピン	山本一守	2022. 10～2025. 10
2	Mr. Deel Bierron Bin Donny	フィリピン	株式会社 OFA	2023. 3～2026. 3
3	Mr. Calvin Madilis	フィリピン	株式会社 OFA	2023. 3～2026. 3
4	Ms. Deska Juliana Putri	インドネシア	あやがわグリーンハウス合同会社	2023. 4. ～2026. 4
5	Ms. Indah Uswatun Hasanah	インドネシア	あやがわグリーンハウス合同会社	2023. 9～2026. 9
6	Mr. Reyes Rayon De Aro	フィリピン	山本一守	2023. 12～2026. 12
7	Ms. Nensy Herlyn Hitipeuw	インドネシア	あやがわグリーンハウス合同会社	2025. 1～2028. 1

耕種農業(畑作・野菜) 36名				
8	Mr. Ainur Rasyid	インドネシア	㈱木下	2019.4～2024.6
9	Mr. Beboso Geneil Aurea	フィリピン	農業生産法人アグリサポート 南大東㈱	2019.7～2024.9
10	Mr. Cordero Joemar Sison	フィリピン	農業生産法人アグリサポート 南大東㈱	2019.7～2024.9
11	Mr. Borres Elizier Dula	フィリピン	農業生産法人アグリサポート 南大東㈱	2019.7～2024.9
12	Mr. Mina Jeffrey Macasiray	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2019.7～2024.9
13	Mr. Rifqi Hanif	インドネシア	農業生産法人合同会社渡 真利農園	2019.9～2024.10
14	Mr. Reyes Marlo Jose	フィリピン	石川拓	2022.3～2024.4
15	Mr. Wardi	インドネシア	㈱木下	2022.4～2024.4
16	Mr. Mohd Fadzili Bin Rahman	マレーシア	(有)さぬき新栄	2022.4～2025.4
17	Mr. Cayley Josip	マレーシア	(有)さぬき新栄	2022.4～2025.4
18	Ms. Anne Thien	マレーシア	(有)さぬき新栄	2022.4～2025.4
19	Ms. Dilaila Donny	マレーシア	(有)さぬき新栄	2022.4～2025.4
20	Mr. Gaylan Rene Boy Membrano	フィリピン	農業生産法人有限会 社グランド・ハイム宮平	2022.4～2025.4
21	Mr. Gilboligaya Arnel Arriesgado	フィリピン	農業生産法人有限会 社グランド・ハイム宮平	2022.4～2025.4
22	Mr. Aquino Mark Anthony Adame	フィリピン	外間大地	2022.4～2025.4
23	Mr. Ballo Daryl Keitt Laureta	フィリピン	外間宏喜	2022.4～2025.4
24	Mr. Silvania Dexter Carbonel	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2022.5～2024.5
25	Mr. Sodikin	インドネシア	中村伸次	2022.5～2025.5
26	Mr. Akbar Robi Pradana	インドネシア	農業生産法人合同会 社渡真利農園	2022.5～2027.5
27	Mr. Mata Jaymar Arsenio	フィリピン	農業生産法人アグリサポート 南大東㈱	2022.12～2024.12
28	Mr. Allen Vanuary De Guzman	フィリピン	石川拓	2023.5～2026.5
29	Ms. Caballero Elisallen Canete	フィリピン	(有)若葉農園	2023.9～2026.5
30	Mr. Muhamad Hasbi Ashshidieq	インドネシア	農業生産法人合同会 社渡真利農園	2023.9～2026.5
31	Mr. Muhammad Ramadhan Hidayatullah	インドネシア	農業生産法人合同会 社渡真利農園	2023.9～2026.5
32	Mr. Augustine J Apin	マレーシア	竹内農場	2023.9～2026.5
33	Mr. Dioso Joemil Apolinario	フィリピン	北日本菅与㈱	2023.10～2026.10
34	Mr. Cepida Edgardo Jr Domingo	フィリピン	北日本菅与㈱	2023.10～2026.10
35	Mr. Benigay Ramie Jr Gemoya	フィリピン	北日本菅与㈱	2023.10～2026.10
36	Mr. Muhamad Imron	インドネシア	(有)若葉農園	2024.1～2027.1
37	Mr. Jalbuena Arjay Reyes	フィリピン	松尾 和也	2024.2～2027.2
38	Mr. Cabriga Dexter Orno	フィリピン	石川拓	2024.2～2027.2
39	Ms. Thet Thet Lwin	ミャンマー	(有)若葉農園	2024.3～2027.3
40	Mr. Callejo Mark Anthony Silario	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2024.4～2026.4
41	Mr. Trube Divino Marcellana	フィリピン	(有)沖縄ファーム	2024.4～2026.4
42	Mr. Earl russel hezron arickson gaban	マレーシア	竹内農場	2024.4～2027.4
43	Ms. Nyo thein	ミャンマー	(有)若葉農園	2024.11～2027.11
耕種農業(果樹) 3名				
44	Mr. Muhammad Rizki	インドネシア	小豆島ヘルシーランド㈱	2023.9～2026.9
45	Mr. M Danda Juliansyah	インドネシア	小豆島ヘルシーランド㈱	2023.9～2026.9
46	Mr. Muhamad Ranzi	インドネシア	小豆島ヘルシーランド㈱	2024.1～2027.1
畜産農業(養鶏) 1名				
47	Mr. Diwayan jonar almueda	フィリピン	㈱ナガイタマゴ	2024.7～2027.7
畜産農業(養豚) 14名				
48	Mr. Barreyro Adrian Hunter Millamina	フィリピン	(有)みずの	2022.3～2027.6
49	Mr. Barreras Raul Jr. Ballesta	フィリピン	(有)みずの	2022.3～2027.6
50	Mr. Magahis Rentz Raniel Cuervo	フィリピン	(有)吉田畜産	2022.4～2025.4

51	Mr. Oriasel Arnold Palad	フィリピン	(有)吉田畜産	2022.4～2025.4
52	Mr. Ying Hkaw	ミャンマー	トヨタファーム	2022.5～2025.5
53	Mr. Linn Htet Aung	ミャンマー	トヨタファーム	2022.5～2025.5
54	Mr. Villastiqui Renand	フィリピン	(有)久保畜産	2022.8～2025.8
55	Mr. Favila Alexis Plurad	フィリピン	(有)久保畜産	2022.8～2025.8
56	Mr. Sylvester Lewis	マレーシア	トヨタファーム	2022.11～2024.11
57	Mr. Zayar Soe	ミャンマー	トヨタファーム	2022.11～2024.11
58	Mr. Baula Kliford Bicera	フィリピン	(有)久保畜産	2024.2～2027.2
59	Mr. Baldemor Racie Jay Alejandro	フィリピン	トヨタファーム	2023.6～2025.6
60	Mr. Billedo Lorenzo Sanidad	フィリピン	トヨタファーム	2023.6～2025.6
61	Mr. Barreras jordan ballesta	フィリピン	(有)みずの	2024.7～2027.7

畜産農業(酪農) 5名

62	Mr. Lahagan Lee Ben Gumulom	フィリピン	岡栄治	2022.3～2025.9
63	Ms. Briosos Andrea Domingo	フィリピン	(株)三好牧場	2022.12～2025.12
64	Ms. Ita Triyanti	インドネシア	藤野 和有基	2023.7～2026.7
65	Mr. Wangdisan Flobert Reyes	フィリピン	岡栄治	2023.12～2026.12
66	Ms. Diah nur asih	インドネシア	藤野 和有基	2025.1～2028.1

【実習科目及び国別研修生数】

国 別 実習科目	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	ベトナム	合計
耕種農業(施設園芸)	3			4		7
耕種農業(畑作・野菜)	8	6	2	20		36
耕種農業(果樹)	3					3
畜産農業(養鶏)				1		1
畜産農業(養豚)		1	3	10		14
畜産農業(酪農)	2			3		5
合 計	16	7	5	38		66

② 工業及び介護技能

No	氏 名	国 名	委託先名	期 間
機械保全 5名				
67	Mr. Marmeto Neil James Barbosa	フィリピン	豊田汽缶(株)	2019.3～2024.5
68	Mr. Singuelas Eric John Fortuno	フィリピン	豊田汽缶(株)	2019.3～2024.5
69	Mr. Alcoriza Daniel Jonas Nepomuceno	フィリピン	豊田汽缶(株)	2022.4～2027.4
70	Mr. Muhammad Rasydan Bin Roslan	マレーシア	日東精工(株)	2023.3～2026.3
71	Mr. Muhammad Na Im Bin Mohd Yasim	マレーシア	日東精工(株)	2023.3～2026.3
建設機械施工 22名				
72	Mr. Angga Muria Pratama	インドネシア	ヤシ建設(株)	2022.4～2025.4
73	Mr. Muhammad Faiz Fakhri Bin Zahari	マレーシア	中村建設(株)	2022.4～2025.4
74	Mr. Darsono	インドネシア	(有)中野建設	2022.5～2025.5
75	Mr. Rudi Hartono	インドネシア	(有)秋重建設	2022.5～2025.5
76	Mr. Muhammad Haziqunurhakim Bin Md Sudarman	マレーシア	(株)フィールドサービス	2022.5～2025.5
77	Mr. Eksan Saputra	インドネシア	ヤシ建設(株)	2023.1～2026.1
78	Mr. Cecep Kurniawan	インドネシア	(株)平和送電	2023.7～2026.7
79	Mr. Taufik Rahmawan	インドネシア	(株)平和送電	2023.7～2026.7
80	Mr. Muhammad Zafri Bin Mohd Zamri	マレーシア	(株)フィールドサービス	2023.9～2026.9

81	Mr. Mohamad Afiq Aiman Bin Azemi	マレーシア	(株)フィールドサービス	2023.9～2026.9
82	Mr. Durahman	インドネシア	(有)かなめ工業	2023.10～2026.10
83	Mr. Planas Belmor Jr Nuyda	インドネシア	(株)藤恵	2023.4～2025.4
84	Mr. Galih Yatna Putra	インドネシア	(株)藤恵	2023.10～2026.10
85	Mr. Yohandi Rahmat	インドネシア	(株)藤恵	2023.12～2026.12
86	Mr. Muhamad ripaldi muslim	インドネシア	(有)かなめ工業	2024.5～2027.5
87	Mr. Arya maulana rachman	インドネシア	(有)秋重建設	2025.1～2028.1
88	Mr. Fito firmansyah	インドネシア	(有)秋重建設	2025.1～2028.1
89	Mr. Pajar padilah	インドネシア	(有)中野建設	2025.1～2028.1
90	Mr. Rian harmanda	インドネシア	(有)中野建設	2025.1～2028.1
91	Mr. Muhammad khalid	インドネシア	(株)平和送電	2025.2～2028.2
92	Mr. Novel suninggreat	インドネシア	(株)平和送電	2025.2～2028.2
93	Mr. Alif haiman bin mohd norhasni	マレーシア	中村建設(株)	2025.3～2028.3
塗装 7 名				
94	Mr. Luna Benjie Moring	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2024.5
95	Mr. Flores Angelo Abit	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2024.5
96	Mr. Ocumen Michael Palara	フィリピン	(株)鈴木サービス工場	2019.7～2024.9
97	Mr. Garcia Francis Dale Batadlan	フィリピン	(株)ヤギザ自動車販売	2022.4～2025.4
98	Mr. Balbinta Kent Cristian Senador	フィリピン	(株)ヤギザ自動車販売	2022.4～2025.4
99	Mr. De Guzman Bernabe Jr Botanes	フィリピン	(株)鈴木サービス工場	2022.12～2025.12
100	Mr. Valera Ryan Billedo	フィリピン	(株)鈴木サービス工場	2022.12～2025.12
冷凍空気調和機器施工 8 名				
101	Mr. Mohamad Syazni Mizan	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2022.5～2025.5
102	Mr. Mohd Afifi Bin Md Jamil	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2022.11～2024.11
103	Mr. Ahmad Syawalluddin Bin Zulkafli	マレーシア	(株)掛川空調サービス	2023.4～2026.4
104	Mr. Mohammad Akmal Bin Mohd Kamil	マレーシア	(株)掛川空調サービス	2023.9～2026.9
105	Mr. Nik Muhammad Fauzan Naim Bin Nor Azan	マレーシア	(株)掛川空調サービス	2023.4～2025.4
106	Mr. Nik Mohamad Syafiq Haikal Bin Nik Al Muhsai	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2023.11～2026.11
107	Mr. Mohammad Afiq Bin Mohd Shafie	マレーシア	(有)清明エンジニアリング	2023.11～2026.11
108	Mr. Amir hamzah bin nazarudin	マレーシア	(株)掛川空調サービス	2025.3～2028.3
溶接 5 名				
109	Mr. Samia Arbnel Aguelera	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2024.5
110	Mr. Clemente Ian Jayo Noceja	フィリピン	(株)浜名ワークス	2019.4～2024.5
111	Mr. Menor Rudner Laurente	フィリピン	(株)マイテック	2019.11～2025.2
112	Mr. Fernandez Aljun Java	フィリピン	(株)マイテック	2022.3～2027.3
113	Mr. Salbibia Johnnel Pabale	フィリピン	(株)マイテック	2022.3～2027.3
鉄筋施工 11 名				
114	Mr. Talingdan Jerwin Baisa	フィリピン	(株)ノセブ・レコン	2019.1～2024.4
115	Mr. Babida Jimar Berona	フィリピン	(株)ノセブ・レコン	2019.1～2024.4
116	Mr. Garcia Dickson Silvania	フィリピン	(株)ノセブ・レコン	2019.1～2024.4
117	Mr. Benigay Bryan Pioquinto	フィリピン	(株)ノセブ・レコン	2022.3～2027.3
118	Mr. Quirogo Jackson Lanutan	フィリピン	(株)ノセブ・レコン	2022.3～2027.3
119	Mr. Ursula Ralph Anthony Caseria	フィリピン	(株)ノセブ・レコン	2022.3～2027.3
120	Mr. Acosta Neo Daguno	フィリピン	(株)ノセブ・レコン	2022.12～2025.12
121	Mr. Onias Ronel Tilar	フィリピン	(株)ノセブ・レコン	2022.12～2025.12
122	Mr. Salcedo Andy Basilio	フィリピン	(株)ノセブ・レコン	2022.12～2025.12
123	Mr. Fernandez Nick Jamaybay	フィリピン	(有)明星工業	2023.5～2026.5
124	Mr. Garcia Jhondel Garcia	フィリピン	(有)明星工業	2023.5～2025.5
配管 2 名				
125	Mr. Tanjusay christian selebio	フィリピン	(株)イガラシ綜業	2024.10～2027.10
126	Mr. Muhammad shahid bin norasmadi	マレーシア	(有)フジ設備	2025.3～2028.3
型枠施工 4 名				
127	Mr. Muhammad Nur Aiman Bin Mohd Sani	マレーシア	三登建設(株)	2022.4～2025.4
128	Mr. Mohd Firdaus Safwan Bin Musinin	マレーシア	三登建設(株)	2022.7～2024.7
129	Mr. Muhammad Zamri Bin Aziz	マレーシア	三登建設(株)	2022.11～2025.11

130	Mr. Muhammad ariff nazmi bin ruziham	マレーシア	三登建設(株)	2025.3～2028.3
建具製作 24 名				
131	Mr. Angriawan Deny Alfiantoro	インドネシア	(株)オークマ	2019.3～2024.5
132	Mr. Fahrul	インドネシア	(株)オークマ	2019.3～2024.5
133	Mr. Lewi Gulid Sambonu	インドネシア	(株)オークマ	2019.3～2024.5
134	Mr. Muhammad Khaidir Muhammad Rasyid	インドネシア	(株)オークマ	2019.3～2024.5
135	Mr. Ahmad Fatoni	インドネシア	(株)オークマ	2022.5～2025.5
136	Mr. Anton	インドネシア	(株)オークマ	2022.5～2025.5
137	Mr. Yoga Wahyu Putra	インドネシア	(株)オークマ	2022.5～2025.5
138	Mr. Maulana Ariel Syaputra	インドネシア	(株)オークマ	2022.5～2025.5
139	Mr. Moch Salam Azidan	インドネシア	(株)オークマ	2022.11～2025.11
140	Mr. Nursiddiq Widana Al Faruq	インドネシア	(株)オークマ	2022.11～2025.11
141	Mr. Hamzah Nurzaman	インドネシア	(株)オークマ	2022.11～2025.11
142	Mr. Sudianto	インドネシア	(株)オークマ	2022.11～2025.11
143	Mr. Agi Paturohman	インドネシア	(株)オークマ	2023.4～2026.4
144	Mr. Bimo Satriyo	インドネシア	(株)オークマ	2023.4～2026.4
145	Mr. Deni Abdul Gani	インドネシア	(株)オークマ	2023.4～2026.4
146	Mr. Ikhsan Mukhlis Firmansyah	インドネシア	(株)オークマ	2023.4～2026.4
147	Mr. Rasyid Saefudin	インドネシア	(株)オークマ	2023.4～2026.4
148	Mr. Muhamad Althaf Ghani Basyarodi	インドネシア	(株)オークマ	2024.2～2027.2
149	Mr. Irkam Hariyanto	インドネシア	(株)オークマ	2024.2～2027.2
150	Mr. Setiyo Aji	インドネシア	(株)オークマ	2024.2～2027.2
151	Mr. Gibran Sava Raditya	インドネシア	(株)オークマ	2024.2～2027.2
152	Mr. Aldi fradifta pirmsyah	インドネシア	(株)オークマ	2025.2～2028.2
153	Mr. Supiyandi	インドネシア	(株)オークマ	2025.2～2028.2
154	Mr. Rizky kusuma	インドネシア	(株)オークマ	2025.2～2028.2
自動車整備 36 名				
155	Mr. Mohamad Farhan Bin Nasarudin	マレーシア	秋田ダィハツ販売(株)	2020.11～2026.5
156	Mr. Muhammad Fazelie Bin Namberom	マレーシア	秋田ダィハツ販売(株)	2020.11～2026.5
157	Mr. Andrada Jeff Batolina	フィリピン	(株)タイシン重機サービス	2022.4～2025.4
158	Mr. Tolentino Ruel Jr. Benigay	フィリピン	(株)タイシン重機サービス	2022.4～2025.4
159	Mr. Muhamad Sazali Bin Salimin	マレーシア	愛知ダィハツ(株)	2022.4～2025.4
160	Mr. Muhammad Sharir Bin Muhammad Azim	マレーシア	愛知ダィハツ(株)	2022.4～2025.4
161	Mr. Muhammad Zulkifli Bin Adnan	マレーシア	浅丘自動車整備(株)	2022.4～2025.4
162	Mr. Muhammad Ariff Danish Bin Muhammad Afandi	マレーシア	滋賀ダィハツ販売(株)	2022.4～2025.4
163	Mr. Adam Syahrin Bin Nordin	マレーシア	滋賀ダィハツ販売(株)	2022.4～2025.4
164	Mr. Muhammad Ariff Bin Rosli	マレーシア	尾道ダィハツ販売(株)	2022.4～2025.4
165	Mr. Muhammad Solehin Bin Ahmad Zakir	マレーシア	尾道ダィハツ販売(株)	2022.4～2025.4
166	Mr. Radin Muhammad Asyraf Bin Radin Mohd Zulkifli	マレーシア	(有)ワイルドレース	2022.5～2025.5
167	Mr. Pesquera Christian Dioso	フィリピン	(有)ワイルドレース	2022.7～2025.7
168	Mr. Lim Sheng Shi	マレーシア	(株)関東マツダ	2022.8～2025.8
169	Mr. Mohammad Ashraf Bin Mohammad Wajidi	マレーシア	(株)関東マツダ	2022.8～2025.8
170	Mr. Ilias Illyasa Bin Mohd Isa	マレーシア	(株)関東マツダ	2022.8～2025.8
171	Mr. Quintos Cristopher Valera	フィリピン	(株)山陰アジス	2022.10～2025.10
172	Mr. Muhammad Nafis Bin Abdul Aziz	マレーシア	(有)ワイルドレース	2022.12～2024.12
173	Mr. Ahmad Imran Bin Ibrahim	マレーシア	愛知ダィハツ(株)	2023.1～2026.1
174	Mr. Donnathaniel Jules	マレーシア	愛知ダィハツ(株)	2023.1～2026.1
175	Mr. Muhammad Nizam Bin Sopri	マレーシア	(株)関東マツダ	2023.8～2026.8
176	Mr. Sokhipol Azam Bin Sokhipol Akmam	マレーシア	(株)関東マツダ	2023.8～2026.8
177	Mr. Ravin Al Jeyaraman	マレーシア	(株)関東マツダ	2023.8～2026.8
178	Mr. Kelvin Chooi Loong Fatt	マレーシア	(株)関東マツダ	2023.8～2026.8
179	Mr. Muhammad Affan Amierul Bin Yusriza	マレーシア	滋賀ダィハツ販売(株)	2023.9～2026.9
180	Mr. Ahmad Zaki Bin Abdul Latif	マレーシア	滋賀ダィハツ販売(株)	2023.9～2026.9
181	Mr. Luqman Nur Hakim Bin Seth	マレーシア	(有)ワイルドレース	2024.1～2027.1

182	Mr. MUHAMAD AKIF BIN ABDUL MAJAD	マレーシア	秋田ダ イハツ販売㈱	2024.1～2027.1
183	Mr. MOHAMAD IRFAN BIN SULAIMAN	マレーシア	秋田ダ イハツ販売㈱	2024.1～2027.1
184	Mr. Millare giovanie adres	フィリピン	㈱山陰オシス	2024.6～2027.6
185	Mr. Mohd syufian bin siron	マレーシア	㈱関東マツダ	2024.8～2027.8
186	Mr. Muhamad bin ghazali	マレーシア	㈱関東マツダ	2024.8～2027.8
187	Mr. Muhammad azamuddin bin mohamad mohet	マレーシア	㈱関東マツダ	2024.8～2027.8
188	Mr. Muhammad faizmi as shauqi bin naim	マレーシア	㈱関東マツダ	2024.8～2027.8
189	Mr. Muhammad zaffri bin muszaffar	マレーシア	愛知ダ イハツ㈱	2024.9～2027.9
190	Mr. Aidiel danniel bin asfalizainI	マレーシア	愛知ダ イハツ㈱	2024.9～2027.9
工業包装 33 名				
191	Ms. Factor Maria Divina Rano	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2018.9～2024.6
192	Ms. Tuanquin Marydel Dexie Pilor	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2018.9～2024.6
193	Ms. Batalon Amelia Bo	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2020.1～2025.3
194	Ms. Vicente Milagros Gandeza	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2020.1～2025.3
195	Ms. Pajarillo Brenda Eugenio	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2020.1～2025.4
196	Ms. Banez Jenniefer Teneza	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2020.1～2025.4
197	Ms. Blaza Elizabeth Benauro	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2020.1～2025.5
198	Ms. Besas Maria Jessica Testado	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2020.1～2025.5
199	Ms. Daowan Edlyn Bernadette Edwin	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2022.12～2025.12
200	Ms. Millare Laira Fei Laureta	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2022.12～2025.12
201	Ms. Barbon Cherrylaine Alagao	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2022.12～2025.12
202	Ms. Borong Jessa Mae Bisquera	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2022.12～2025.12
203	Mr. Elpa Mark Bernos	フィリピン	㈱万年商店	2023.2～2026.2
204	Mr. Anical Dario Alunday	フィリピン	㈱万年商店	2023.2～2026.2
205	Mr. Rahmat Ardiansyah	インドネシア	㈱ハラダ	2023.4～2027.4
206	Mr. Randika Sejati	インドネシア	㈱ハラダ	2023.4～2027.4
207	Mr. Gilang Judanto Ibnu Adytiyar	インドネシア	㈱ハラダ	2023.4～2027.4
208	Ms. Benemerito Cristine Joy Bringas	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2023.7～2026.7
209	Ms. Callejo Maybelle Silario	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2023.7～2026.7
210	Ms. Reyes Julie Ann De Aro	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2023.7～2026.7
211	Ms. Bosque Evelyn Balayan	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2023.7～2026.7
212	Ms. Montilla Kim Camile Martinez	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2023.7～2026.7
213	Ms. Montorio Jessa Ta A	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2023.7～2026.7
214	Ms. Fernandez Geralyn Samillano	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2023.7～2026.7
215	Ms. Valera paula tarona	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2024.6～2027.6
216	Ms. Bacarisa deceree laoagan	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2024.6～2027.6
217	Ms. Blaza honey may blanes	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2024.6～2027.6
218	Ms. Palos jelly anne osorio	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2024.6～2027.6
219	Ms. Casigay lovely may claro	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2024.6～2027.6
220	Ms. Viado norshalene bragas	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2024.6～2027.6
221	Ms. Tuanquin princess dianne baldemor	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2024.6～2027.6
222	Ms. Marquez princes diane cabalbal	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2024.6～2027.6
223	Ms. Reyes esperanza alagao	フィリピン	ネクスラッピ イ㈱	2024.12～2027.12
射出成型 6 名				
224	Mr. Arquion Allen Kris Fernandez	フィリピン	工業化成㈱鈴鹿工場	2019.2～2024.4
225	Mr. Magsanay Mark Anthony Marabe	フィリピン	工業化成㈱鈴鹿工場	2019.2～2024.4
226	Mr. Revilla John Carlo Garganta	フィリピン	工業化成㈱鈴鹿工場	2019.2～2024.4
227	Mr. Bermillo Jeremi John Moscota	フィリピン	工業化成㈱鈴鹿工場	2024.2～2027.2
228	Mr. Carrera John Emmanuell Fernandez	フィリピン	工業化成㈱鈴鹿工場	2024.2～2027.2
229	Mr. Larisca junilon patriarcha	フィリピン	工業化成㈱鈴鹿工場	2024.5～2027.5
鉄工 23 名				
230	Mr. Alfin Musthofa	インドネシア	㈱鶴田工業	2022.5～2025.5
231	Mr. Burhanudin Rahman	インドネシア	㈱鶴田工業	2022.5～2025.5
232	Mr. Rahardi Firman Halim	インドネシア	九州住宅工業㈱	2022.5～2025.5
233	Mr. As Ari	インドネシア	九州住宅工業㈱	2022.5～2025.5
234	Mr. Ahmad Toha	インドネシア	九州住宅工業㈱	2022.5～2025.5

235	Mr. Emul Mulyana	インドネシア	㈱鶴田工業	2022.11～2025.11
236	Mr. Mahatma Damar Jati Supajar	インドネシア	㈱鶴田工業	2022.11～2025.11
237	Mr. Deni Fajri Setiawan	インドネシア	㈱ファブコン九州	2023.4～2027.4
238	Mr. Rizki Virdaus	インドネシア	㈱ファブコン九州	2023.4～2027.4
239	Mr. M Zanky Dausti	インドネシア	㈱ファブコン九州	2023.4～2027.4
240	Mr. Yoga Prayogo	インドネシア	九州住宅工業㈱	2024.2～2027.2
241	Mr. Rahmawan Hidayat	インドネシア	九州住宅工業㈱	2024.2～2027.2
242	Mr. Dimas Fajar Ramadhan	インドネシア	九州住宅工業㈱	2024.2～2027.2
243	Mr. Alif Dityas Pangestu	インドネシア	㈱鶴田工業	2023.6～2025.6
244	Mr. Abdul Rajak Ipaenin	インドネシア	㈱鶴田工業	2023.6～2025.6
245	Mr. Ferdinand al jabbar suseno	インドネシア	㈱鶴田工業	2024.7～2027.7
246	Mr. Rama yulio	インドネシア	㈱鶴田工業	2024.7～2027.7
247	Mr. Syahril ranggadika dwiyanto	インドネシア	㈱ファブコン九州	2024.10～2027.10
248	Mr. Rendi mauladani	インドネシア	㈱ファブコン九州	2024.10～2027.10
249	Mr. Akbar jihad	インドネシア	㈱ファブコン九州	2024.10～2027.10
250	Mr. Aladin jocel bulacan	フィリピン	㈱平井工業	2024.12～2027.12
251	Mr. Batoon samuel junior belisario	フィリピン	㈱平井工業	2024.12～2027.12
252	Mr. Sequerra jay jay billedo	フィリピン	㈱平井工業	2024.12～2027.12
防水施工 3 名				
253	Mr. Paat Junel Babida	フィリピン	㈱アルファ技研	2023.6～2025.6
254	Mr. Domingo Mark Hona	フィリピン	㈱アルファ技研	2023.5～2026.5
255	Mr. Molina Harold Balagulan	フィリピン	㈱アルファ技研	2023.5～2026.5
牛豚食肉処理加工業 2 名				
256	Ms. SANCIO SHIENA JAGOCYO	フィリピン	中王食肉㈱	2023.9～2026.9
257	Ms. MALUNES MAY ERICA CORREA	フィリピン	中王食肉㈱	2023.9～2026.9
介護 32 名				
258	Ms. Benoyaco Eve Concepcion Dinulung	フィリピン	医療法人静心会桶狭間病院	2022.4～2025.4
259	Ms. Dumandan Alexandra Claudette Santos	フィリピン	医療法人静心会桶狭間病院	2022.4～2025.4
260	Mr. Junas Jasper Junsay	フィリピン	社会福祉法人但馬福祉園	2022.6～2025.6
261	Ms. Venzon Marissa Veniegas	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
262	Ms. Campos Christlyn Palmos	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
263	Ms. Espenorio Winielyn Atadora	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
264	Ms. Javier Jovelyn Montano	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
265	Ms. Millan Aiza Gladys Cordova	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
266	Mr. Ocura Abe Raph Desuyo	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
267	Ms. Villarosa Jeza Sagang	フィリピン	生活介護サービス㈱	2022.6～2025.6
268	Ms. Cacnio Hazel Dawn Corbeta	フィリピン	㈱ソラスト	2022.6～2025.6
269	Ms. July Lin Lin	ミャンマー	㈱やさしい手	2022.7～2025.7
270	Ms. May Mie Aung	ミャンマー	㈱やさしい手	2022.7～2025.7
271	Ms. Mi Yadana Mon	ミャンマー	㈱やさしい手	2022.7～2025.7
272	Ms. Soe Soe Mon	ミャンマー	㈱やさしい手	2022.7～2025.7
273	Ms. Yin Mon San	ミャンマー	㈱やさしい手	2022.7～2025.7
274	Ms. Khadijah Uswah Mujahida Akbari	インドネシア	医療法人財団竹栄会	2022.7～2025.7
275	Ms. Ghina Septiany Nurul Wahdah	インドネシア	医療法人財団竹栄会	2022.7～2025.7
276	Ms. Nonika	インドネシア	医療法人財団竹栄会	2022.7～2025.7
277	Ms. Puspita Surbakti	インドネシア	社会福祉法人 仁心会	2023.4～2026.4
278	Ms. Melisa Simanjuntak	インドネシア	社会福祉法人 仁心会	2023.4～2026.4
279	Ms. Wah Wah Aung	ミャンマー	医療法人静心会桶狭間病院	2023.11～2026.11
280	Ms. Thae Mar Htwe	ミャンマー	医療法人静心会桶狭間病院	2023.11～2026.11
281	Ms. Aye Yadanar Moe	ミャンマー	医療法人静心会桶狭間病院	2023.11～2026.11
282	Ms. Du Ay Korine May Ortega	フィリピン	社会福祉法人	2024.3～2027.3

			但馬福祉園	
283	Ms. Ei phyu	ミャンマー	(株)やさしい手	2024.5～2027.5
284	Ms. Hein moh lwin	ミャンマー	(株)やさしい手	2024.5～2027.5
285	Ms. Khin aye	ミャンマー	(株)やさしい手	2024.5～2027.5
286	Ms. Poe ei san	ミャンマー	(株)やさしい手	2024.5～2027.5
287	Ms. Swe swe htet	ミャンマー	(株)やさしい手	2024.5～2027.5
288	Ms. Zin mar phyo	ミャンマー	(株)やさしい手	2024.5～2027.5
289	Ms. Irma yunita dewi	インドネシア	医療法人財団竹栄会	2024.11～2027.11
とび30名				
290	Mr. Mendoza Jomar Rico	フィリピン	(株)小林造園	2022.3～2027.6
291	Mr. Revilla John Vergel Garganta	フィリピン	(株)小林造園	2022.3～2027.6
292	Mr. Nguyen Quang Ninh	ベトナム	(有)大侑	2022.5～2025.5
293	Mr. Bui Van Tuan	ベトナム	(有)大侑	2022.5～2025.5
294	Mr. Nguyen Canh Gioi	ベトナム	(有)大侑	2022.5～2025.5
295	Mr. Muhammad Jaini	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
296	Mr. Ronaldi	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
297	Mr. Wahyudi	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
298	Mr. Yazid Al Bastomi	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
299	Mr. Zul Fahmi	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
300	Mr. Kenzo Lorenzo Da Concencao De Oliveira	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2022.6～2025.6
301	Mr. Muhammad Aniq Azim Bin Zazuli	マレーシア	えすず(株)	2023.3～2026.3
302	Mr. Muhamad Zaki Azrin Bin Zainudin	マレーシア	えすず(株)	2023.3～2026.3
303	Mr. Haddad Alwi Rahmayahya	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2023.7～2026.7
304	Mr. Bambang Abdul Syahid	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2023.7～2026.7
305	Mr. Agisna Nurhadi	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2023.7～2026.7
306	Mr. Alkatri Moh Musairi	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2023.7～2026.7
307	Mr. Hoki Darusman	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2023.7～2026.7
308	Mr. Muhamad Ikhsanudin Al Maruf Ms	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2023.7～2026.7
309	Mr. RADEN JIAN AL FAJAR	インドネシア	(有)大侑	2023.10～2026.10
310	Mr. MUHAMMAD IKHSAN AKBAR	インドネシア	(有)大侑	2023.10～2026.10
311	Mr. M RIFKI NURDIN FIRDAUS	インドネシア	(有)大侑	2023.10～2026.10
312	Mr. Anggi	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2024.7～2027.7
313	Mr. Isnanda	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2024.7～2027.7
314	Mr. Muhammad aldi	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2024.7～2027.7
315	Mr. Muhammad wahyu saputra	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2024.7～2027.7
316	Mr. Pujiana amrullah	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2024.7～2027.7
317	Mr. Royyan fahmi abrori	インドネシア	(株)神奈川フェンス土木	2024.7～2027.7
318	Mr. Alian asrofiq hidayat	インドネシア	(株)アーチ電工	2024.10～2027.10
319	Mr. Alfiyan yusuf nasrulloh	インドネシア	(株)アーチ電工	2024.10～2027.10
さく井2名				
320	Mr. Serbito Jester John Talledo	フィリピン	(株)常総興業	2022.7～2025.7
321	Mr. Bugtong Efren Decena	フィリピン	(株)常総興業	2022.7～2025.7
電子機器組立て1名				
322	Mr. Muhammad Syahmi Bin Zakaria	マレーシア	(株)正興電機製作所	2023.9～2026.9
コンクリート製造6名				
323	Mr. Ginete Ronel Larry Rosquillo	フィリピン	(株)セブ・レコン	2023.12～2026.12
324	Mr. Cuarte Klent Cepida	フィリピン	(株)セブ・レコン	2023.12～2026.12
325	Mr. Valeriano Jelord Sudlon	フィリピン	(株)セブ・レコン	2023.12～2026.12
326	Mr. Bicera neil john ernes avellaneda	フィリピン	(株)セブ・レコン	2024.12～2027.12
327	Mr. Mamac mark anthony reyes	フィリピン	(株)セブ・レコン	2024.12～2027.12
328	Mr. Beneza norfil alcantara	フィリピン	(株)セブ・レコン	2024.12～2027.12

【実習科目及び国別研修生数】

実習科目 \ 国 別	インドネシア	マレーシア	ミャンマー	フィリピン	ベトナム	合計
機械保全		2		3		5
建設機械施工	17	5				22
塗装				7		7
冷凍空気調和機器施工		8				8
溶接				5		5
鉄筋施工				11		11
配管		1		1		2
型枠施工		4				4
建具製作	24					24
自動車整備		31		5		36
工業包装	3			30		33
射出成型				6		6
鉄工	20			3		23
防水施工				3		3
牛豚処理加工業				2		2
介護	6		14	12		32
とび	23	2		2	3	30
さく井				2		2
電子機器組立て		1				1
コンクリート製造				6		6
合計	93	54	14	98	3	262

2) 受託事業

1) 特定技能

No	氏 名	国 名	委託先	期間
耕種農業(施設園芸) 2名				
1	Mr. Preza Zulueto II Talledo	フィリピン	宇江城 安勝	2022.1～2027.1
2	Mr. Barreyro Darwin Bejarin	フィリピン	外間宏喜	2022.1～2027.1
耕種農業(畑作・野菜) 19名				
3	Mr. Paborada Noel Jr Bulanon	フィリピン	金川 均	2022.12～2027.12
4	Mr. Requiron Steniel Cabayao	フィリピン	浅沼 清	2022.12～2027.12
5	Mr. Baldemor Deo Jomar Tobias	フィリピン	外間 宏喜	2021.8～2026.8
6	Mr. Caampued Julie Nunez	フィリピン	石川拓	2023.1～2024.1
7	Mr. Labaoan Aquilles Balueg	フィリピン	外間 宏喜	2023.6～2024.5
8	Mr. Tesoro Tom James Isao	フィリピン	北日本菅与(株)	2023.7～2028.7
9	Mr. Alfaro Santy Jay Pilor	フィリピン	北日本菅与(株)	2023.7～2028.7
10	Mr. Samsul Gay	インドネシア	さんわ農夢株式会社	2023.9～2028.9
11	Mr. Abdul Rokhman Rokhim Soleh	インドネシア	棚廣八堂	2023.12～2028.12

12	Mr. Deo Pratiskatama	インドネシア	㈱廣八堂	2023.12～2028.12
13	Mr. Tarrazona Jomaver Telebrico	フィリピン	大城 典一	2023.12～2028.12
14	Mr. Claridad Jhon Ray Relota	フィリピン	沖山 聖	2023.12～2028.12
15	Mr. Wardi	インドネシア	(株)木下	2024.4～2029.4
16	Mr. SRIYANTO	インドネシア	有限会社 若葉農園	2024.5～2029.5
17	Mr. Ainur Rasyid	インドネシア	(株)木下	2024.5～2029.5
18	Mr. Silvania Dexter Carbonel	フィリピン	沖縄ファーム	2024.5～2029.5
19	Mr. Mina Jeffrey Macasiray	フィリピン	(有) 沖縄ファーム	2024.9～2029.9
20	Mr. Maulana Ibrahim	インドネシア	有限会社 若葉農園	2024.11～2029.11
21	Mr. Ade Kosana	インドネシア	有限会社 若葉農園	2024.11～2029.11
耕種農業(果樹) 3名				
22	Mr. Heri	インドネシア	小豆島ヘルシーランド(株)	2024.1～2029.1
23	Mr. Muhamad Miladi Aminyoga	インドネシア	小豆島ヘルシーランド(株)	2024.3～2029.3
24	Mr. SYAFII	インドネシア	小豆島ヘルシーランド(株)	2025.2～2030.2
畜産農業(養豚) 7名				
25	Mr. Futosi John Steven Itulid	フィリピン	トヨタファーム	2023.5～2028.5
26	Mr. Tabinas Raymart Merced	フィリピン	有限会社 吉田畜産	2023.8～2028.8
27	Mr. Manahan Roberto Bartolome	フィリピン	有限会社 久保畜産	2024.4～2029.4
28	Mr. TALINGDAN NARCISO BALUCAS	フィリピン	有限会社 吉田畜産	2024.7～2029.7
29	Mr. Sylvester Lewis	マレーシア	トヨタファーム	2024.11～2029.11
30	Mr. ECHAGUE ALVIN VINCIA	フィリピン	トヨタファーム	2025.2～2030.2
31	Mr. ORIEL ROMEO JR AKONG	フィリピン	トヨタファーム	2025.2～2030.2
畜産農業(養鶏) 5名				
32	Mr. Ursula Carlo Castaneda	フィリピン	㈱ナガイタマゴ	2023.2～2028.2
33	Mr. Tanacio Frodan Ablaza	フィリピン	㈱ナガイタマゴ	2023.3～2028.3
34	Mr. Telebrico Gelo Barcelo	フィリピン	㈱ナガイタマゴ	2023.3～2028.3
35	Mr. Astrande Arman Tamo	フィリピン	㈱ナガイタマゴ	2023.3～2028.3
36	Mr. De Villa Alvin Magboo	フィリピン	㈱ナガイタマゴ	2023.3～2028.3
畜産農業(酪農) 1名				
37	Ms. D Susette Semuil	マレーシア	(有)小池牧場	2024.4～2029.4
溶接 3名				
38	Mr. Cuizon Reynaldo Jr Yangyang	フィリピン	(株) マイテック	2022.1～2027.1
39	Mr. Dacumos Reycho Villegas	フィリピン	(株) マイテック	2022.12～2027.12
40	Mr. Bermudez Reymund Cuerbo	フィリピン	(株) マイテック	2023.6～2028.6
鉄筋施工 11名				
41	Mr. Ginete Jason Rey Dolloso	フィリピン	(株) ノセプレコン	2022.9～2023.9
42	Mr. Dupaen Andrew Romero	フィリピン	(株) ノセプレコン	2022.9～2027.9
43	Mr. Callena Nomer Cacho	フィリピン	(株) ノセプレコン	2022.12～2027.12
44	Mr. Fernandez Florencio Jr. Jamaybay	フィリピン	(株) ノセプレコン	2022.10～2027.10
45	Mr. Domingo Samuel Jr Tadeo	フィリピン	(株) ノセプレコン	2022.12～2027.12
46	Mr. Barcena Darren Borja	フィリピン	(株) ノセプレコン	2023.7～2028.7
47	Mr. Bodona Diomar Rayan Rafael	フィリピン	(株) ノセプレコン	2023.7～2028.7
48	Mr. Mangma Reymark Walohan	フィリピン	(株) ノセプレコン	2023.7～2028.7
49	Mr. Entero Jayson Molina	フィリピン	(株) ノセプレコン	2023.7～2028.7
50	Mr. Babida Jimar Berona	フィリピン	(株) ノセプレコン	2024.7～2029.7
51	Mr. Garcia Dickson Silvania	フィリピン	(株) ノセプレコン	2024.7～2029.7
建設機械施工 8名				
52	Mr. Mohamad Faizal Azlizam Bin Abdul Talib	マレーシア	ヤスキ建設株式会社	2022.4～2027.4
53	Mr. Pramudya Eka Syachriar	インドネシア	(有) 秋重建設	2023.3～2028.3
54	Mr. Pendik Jatmiko	インドネシア	(有) 秋重建設	2023.3～2028.3
55	Mr. Isam Fauzi	インドネシア	(有) 中野建設	2023.3～2028.3
56	Mr. Ismanto	インドネシア	㈱藤恵	2022.4～2023.9
57	Mr. Hasrul	インドネシア	㈱藤恵	2022.4～2023.9

58	Mr. Acebo Jerson Montilla	フィリピン	(株)藤恵	2023.12～2028.12
59	Mr. MOHD ASHRAF BIN IBRAHIM	マレーシア	(株)フィールドサービス	2024.7～2029.7
型枠施工 1 名				
60	Mr. Mohd Firdaus Safwan Bin Musinin	マレーシア	三登建設株式会社	2024.7～2029.7
建具製作 3 名				
61	Mr. Angriawan Deny Alfiantoro	インドネシア	(株) オークマ	2024.10～2029.10
62	Mr. Muhammad Khaidir Muhammad Rasyid	インドネシア	(株) オークマ	2024.10～2029.10
63	Mr. Lewi Gulid Sambonu	インドネシア	(株) オークマ	2024.11～2029.11
配管 2 名				
64	Mr. Muhammad Asyraaf Hamizan Bin Ahmad Zawawi	マレーシア	(有) フジ設備	2024.4～2029.4
65	Mr. Wan Mohammad Imran Fahmi Bin Wan Nor Irman	マレーシア	(有) フジ設備	2024.4～2029.4
自動車整備 6 名				
66	Mr. Sotto Alexander Arquio	フィリピン	(株) タイシン重機サービス	2023.4～2028.4
67	Mr. Fernandez Glizaldren Nograles	フィリピン	(株) タイシン重機サービス	2023.4～2028.4
68	Mr. Macaya Jan Rafael Salhay	フィリピン	(株) 山陰オアシス	2021.10～2026.1
69	Mr. Trube Joemar Ocumen	フィリピン	(株) 鈴木サービス工場	2022.5～2027.5
70	Mr. Muhammad Redzuan Bin Burhan	マレーシア	(株) ヤナギサワ自動車販売	2023.1～2028.1
71	Mr. MUHAMMAD NAFIS BIN ABDUL AZIZ	マレーシア	(有) ワイルドグース	2024.12～2029.12
塗装 1 名				
72	Mr. Ocumen Michael Palara	フィリピン	(株) 鈴木サービス工場	2024.10～2029.10
牛豚食肉処理加工業 3 名				
73	Ms. Sibuyan Easter Cindy Dizon	フィリピン	中王食肉(株)	2023.2～2024.2
74	Ms. Francisco Julie Ann Penafiel	フィリピン	中王食肉(株)	2023.2～2028.2
75	Ms. Sibuyan Easter Cindy Dizon	フィリピン	中王食肉(株)	2024.11～2029.11
飲食品製造業 10 名				
76	Mr. Mochamad Dading Mufasil	インドネシア	(株) 廣八堂	2023.4～2028.4
77	Mr. Syukur Andriawan	インドネシア	(株) 廣八堂	2023.4～2028.4
78	Mr. HADI NUROHIM	インドネシア	(株) 廣八堂	2024.4～2029.4
79	Mr. FEBRIANA	インドネシア	(株) 廣八堂	2024.4～2029.4
80	Mr. ROHAN HIDAYAT	インドネシア	(株) 廣八堂	2024.4～2029.4
81	Mr. ANGGI DENI SUPRIYANTO	インドネシア	(株) 廣八堂	2024.4～2029.4
82	Ms. ELSA APRI ANANTI	インドネシア	(株) 廣八堂	2024.9～2029.9
83	Ms. DEDE NOVIANTI RISMANTO	インドネシア	(株) 廣八堂	2024.12～2029.12
84	Ms. TANUTAN ELLA ENORPE	フィリピン	株式会社扶桑守口食品	2024.12～2029.12
85	Ms. JAMALIA SURYANI	インドネシア	(株) 廣八堂	2025.2～2030.2
介護 7 名				
86	Mr. Aristo Januardi Amril	インドネシア	はなさきむら	2021.12～2026.12
87	Ms. Villanueva Joyce Pesca	フィリピン	(有) 山本 →(有) たいよう	2023.12～2028.12
88	Ms. SUARNABA KELLIE MARIE ALOJADO	フィリピン	社会福祉法人 愛光園	2024.5～2029.5
89	Ms. JEREMIA NATALINA SAMOSIR	インドネシア	社会福祉法人 仁心会	2024.9～2029.9
90	Ms. MONIKA SIHOMBING	インドネシア	社会福祉法人 仁心会	2024.9～2029.9
91	Ms. JUWI YANTI GEOVANI SIAGIAN	インドネシア	社会福祉法人 仁心会	2025.1～2030.1
92	Ms. OKTRINA TELEUMBANUA	インドネシア	社会福祉法人 仁心会	2025.1～2030.1

【実習科目及び国別研修生数】

国 別 実習科目	インドネシア	マレーシア	フィリピン	合計
耕種農業（施設園芸）			2	2
耕種農業（畑作・野菜）		8	11	19
耕種農業（果樹）	3			3
畜産農業（養鶏）			5	5
畜産農業（養豚）		1	6	7
畜産農業（酪農）		1		1
溶接			3	3
鉄筋施工			11	11
建設機械施工	5	2	1	8
型枠施工		1		1
建具製作	3			3
配管		2		2
自動車整備		2	4	6
塗装			1	1
牛豚食肉処理加工業			3	3
飲食品製造業	9		1	10
介護	5		2	7
合 計	25	17	50	92

総括

当法人がプロジェクトを構える各国、各現場の農民・漁民へのヒアリングを行うと、以前に増して、地球環境の変化を揃って口にするのが印象に残る。活動に加わるモチベーションとなっているからと推察する。今年度も、海外の実情を日本国内に伝えるよう、各種体験活動やセミナー、海外現場視察、イベントへの出展などを実施し、16,000人以上にご参加いただくことができた。引き続き、世界各国の現場、国内各支部、各拠点の存在という他団体からうらやましがられる優位性を活かしつつ、対外企画力・接触力・集客力が向上するよう努力しながら、「一般公募型」行事を展開したい。

創立から40・50・60年を支えた第2期支援者層から、70年・80年目を支える第3期支援者層を構築できるかどうか、すでに大きな曲がり角に立っている。徹底した攻めの姿勢で臨んでいるものの、当面は厳しい状況が続くと思われる。会員のほか寄付者を含む支援者の年齢構造は逆ピラミッド型であり、年を追うごとに総数が増えずピラミッドが細まっている。個人会員および寄附者の平均年齢は70歳を若干下回る程度である点、オイスカ全体でダイレクトメールを出せる名簿が「わずか7,000件程度」しかないという点に対して、強い危機感を持っている。

2021年度に上記分析をして以来、平均年齢以下とくに若年層の理解者・支援者を増やさねばならないことを最重要課題と掲げ、長年の弱点の「個人対策」に取り組んできた。支援者拡大策の一つとして、主に個人向けに実施している3年目の季節募金も夏・冬2度実施した結果、新規収入策としての位置を確立できた。しかし、『コンタクトできる「友人」=潜在的寄附者』を継続的に増やす仕組みをつくり、今年度ダイレクトメール送付先3,000人増やす目標を掲げたが、新しい送付先、寄付者数が大幅に増えたとは言えない。

「広報が弱い」「知名度が低い」と昔から指摘されているが、昨年度末には、テレビ朝日「報道ステーション」でウズベキスタン・アラル海沙漠化防止プロジェクトが紹介されるなど、メディア露出も全国的に微増傾向にある。HPの更新頻度の大幅増、SNSの活用更新、オンラインを活用した活動報告会などを重ね、HPやSNSへのアクセス回数などは堅調に増えている。多くのNGO・NPOなどからなる「寄付月間推進委員会」や報道関係者など外部識者からは評価を受けている。しかし、SNSを活用しない世代が中心の支援者層からは、さらなる広がりを生むことは難しいジレンマがある。まずは職員一人一人が、粘り強く拡散努力を続ける必要がある。

会費収入は、コロナ禍前の3年間は微増したが、それ以降は微減が続いている。会員数はすでに3,691件、入金ベースでは3,522件。会員「獲得力」は10年前の年平均約300件から低下し、いまは126件に落ち込んでいる状況である。そもそもオイスカは、4ヵ所の研修センターが西日本寄り、東日本の会員数が少ない「西高東低」と、個人・法人数の比率が半々（法人数が多い）などの特徴があるが、首都圏・関西の大都市圏での会員増強は依然として進まず、地盤沈下が著しい。自らが立てた戦略・戦術を信じ、脱「逆ピラミッド型」に向けて、まずは理解者・賛同者を増やす展開を続けたい。

【表1】重要数値サマリー

内容	2023 年度実績	2024 年度目標	2024 年度実績	目標対比
各種活動への参加者数 *	17,262 人	10,621 人	16,367 人	+5,746
賛助会員数	3,863 件	4,000 件	3,691 件	▲309
新規入会者数	151 件	250 件	126 件	▲124
退会者数	385 件	200 件	311 件	+111
賛助会員受取会費収入	124,802,000 円	135,001,000 円	122,760,000 円	▲12,241,000 円
年間寄附者数	1,272 件	1,500 件	1,288 件	▲212 件
新規寄附者数	226 件	300 件	295 件	▲5 件
受取寄附金収入	209,067,746 円	276,924,000 円	240,804,077 円	▲36,119,923 円
保有有効リスト数	6,911 件	10,000 件	6,856 件	▲3,144 件
コンタクト可能件数 (郵送・SNS・YouTube・メルマガ含)	15,398 件	18,000 件	15,949 件	▲2,051 件

*本部・TC・支部で企画した各種活動への参加者のべ人数

1. 講演会・セミナー等の開催

① 「地球環境を考えるトークイベント 2024 春」

開催日：令和6年5月19日（日）

会 場：会場（CIVI 北梅田研修センター）とオンラインのハイブリッド開催

参加者：100名

内 容：

「子供の森」計画に参加するタイとインドネシアの子ども4名が親善大使として、また、プログラムを調整しながら指導にあたる現地スタッフ2名が来日したのに合わせ、「小さなヒーローたちの森づくり」と題し、現地での活動の様子、活動にあたっての課題などについて発表。広く「子供の森」計画の活動を知っていただく機会として実施。

② 「サステナブルな世界を考えるトークイベント 2024 秋」

開催日：令和6年11月26日（火）

会 場：会場（コンgresクエア日本橋）とオンラインのハイブリッド開催

参加者：150名

内 容：

『輪と和』が創るサステナブルな世界」と題してトークイベントを開催。森林環境学を専門とする東京大学名誉教授の太田猛彦氏、東京海上日動火災保険株式会社の小橋稔睦氏、住友化学株式会社の星野正大氏、オイスカ海外事業部の林久美子が、ネイチャーポジティブに向けた緑化の意義や持続可能な社会を目指す自社の取り組み、オイスカと連携した海外植林事業などについてそれぞれの立場から語った。首都圏支部20周年行事として首都圏支部と共催

【表2】講演会等の行事は以下のとおり。

組織名	事業名	開催日	参加者数	開催場所
北海道支部	アラル海砂漠化回復プロジェクト 体験ツアー報告&交流会	5月9日	21名	SappoLodge（札幌市）
宮城県支部	活動報告会	8月2日	60名	カメイ(株)本社（仙台市）
首都圏支部 （本部共催）	首都圏支部設立20周年記念トーク イベント	11月26日	60名 80名	コングレスクエア日本橋 オンライン配信
山梨県支部	やまなし水源地ブランド推進協議会 令和6年度（第13回）総会	6月4日	38名	恩賜林記念館（甲府市）
	甲州市・オルビスの森活用協議会 第2回総会	7月3日	11名	甲州市役所（甲州市）
	富士山の森づくり推進協議会 2024 年度総会	2月7日	21名	東京農業大学（世田谷区）
富山県支部	活動報告会	5月27日	65名	富山県民会館（富山市）
静岡県支部	第二回中部日本の集い	6月15日	70名	オイスカ浜松国際高校 （浜松市）
愛知県支部	2024 オイスカデー	9月28日	300名	東別院会館（名古屋市中区）
中部日本後援会	オイスカ活動報告会	2月20日	40名	東桜会館（名古屋市中区）
豊田推進協議会	樋泉先生講演会	3月11日	29名	中部日本研修センター
三重推進協議会	オイスカ講演会	12月13日	200名	中部日本研修センター
岐阜県支部/本部	「ぎふ木育」講演	6月29日	15名	大垣フォーラムホテル （大垣市）
	「子供の森」計画 報告会	10月24日	30名	
関西支部/本部	「子供の森」計画親善大使 トークイベント	5月19日	100名	北梅田 CIVI 研修センター （大阪市）
	「子供の森」計画親善大使 活動報告会	5月20日	109名 40名	住友化学㈱大阪工場 東急エクセルホテル大阪
	タイ活動報告会	2月23日	10名	関西支部事務所
四国支部	第14回支部幹事会 記念講演会	4月26日	40名	四国研修センター
	第30回オイスカ四国のつどい	10月11日	280名	ホテルパールガーデン
西日本支部	オイスカ福岡県議連活動報告会	12月12日	100名	福岡県庁



第30回オイスカ四国のつどい（四国支部）



活動報告会（宮城県支部）

2. 資料の作成・配布・インターネットでの情報発信

地球環境の保全をはじめとする公益に資するオイスカの活動の重要性を広く社会に伝えることを目的として、各種資料の作成・配布およびインターネットを活用した情報発信を行っている。これらの取り組みは、団体の活動内容を多くの人々に知っていただくことで、環境問題や持続可能な社会づくりへの理解と関心を促し、一人ひとりの意識や行動の変容につなげることを目指している。また、社会全体における環境保全へのマインドを高め、共に取り組む仲間を広げていくためにも、わかりやすく信頼性のある情報発信を継続していくことが重要であると考えている。

(1) 個人支援者の維持・拡大

① 潜在支援者の獲得に向けた取り組み

持続的な支援基盤の拡充を図るため、これまで関係のなかった層へのアプローチを強化し、オイスカの活動理念や取り組みに共感し、将来的に支援につながる「潜在的支援者」の獲得を目的として、以下のような施策を実施。

<主な取り組みと進捗>

○交流・参加の機会提供

各種イベントや現地視察ツアー(詳細:表5、6、7、8)を通じ、オイスカの活動を現場で知ってもらう機会を提供

○支援の入口づくり

クラウドファンディングや季節募金など、参加しやすい形での支援機会を提供した。特にクラウドファンディングでは、新たな層からの共感を得て34人が新規支援者であった。

○デジタルツールの活用

SNSでの定期的な情報発信を継続実施。SNS広告を季節募金期間中に実施し、新規層からのWebサイト閲覧が見られた。オンラインイベントを8回実施し、延べ参加者数416名、うち初めての関わりの方が99名と、新規層へのリーチにつながっている。

○啓発資料の活用

オイスカ紹介リーフレットやSNS案内ハガキの配布を通じ、イベント来場者に活動を伝えるとともに、理解を深めるきっかけづくりを行った。

<成果と今後の課題>

SNSフォロワー数は前年比110%、Webサイト閲覧のアクティブユーザー数は前年比158%に増加。また、寄付月間共同事務局が主催する「寄付月間2023 パートナー賞」を受賞し、SNSでの発信が評価された。支援者像設定のための調査が未実施だったことにより、イベント実施や情報発信に活用することができず、広く一般向けの発信にとどまった。また、イベント参加者の支援者管理システムへの登録が進まないことから、登録の意義を内部に浸透させることが必要。潜在支援者との継続的な関係構築には、フォローアップ施策やセグメントに応じたコミュニケーションの工夫が必要と感ずるため、具体策を検討していきたい。

② 継続寄附者の参加・支援機会の提供

継続してご支援くださる寄附者の皆さまとの信頼関係を維持・強化するため、活動内容の可視化や、参加・対話の機会づくりの取り組みを進めた。これにより、単なる「寄附」ではなく、オイスカの活動に共に関わる仲間としての意識を醸成し、より継続的で主体的な支援へとつなげることを目的としています。

＜主な取り組みと進捗＞

○年次報告書の送付

年間活動報告書（広報誌「OISCA」9月号）を寄附者の皆さまにもお届けし、団体の活動全体への理解を深めていただくとともに、ご支援がどのように活かされているかを伝えた。

○季節募金の案内

年に2回実施する季節募金を通じ、継続的な支援への参加を呼びかけた。既存寄附者にはメールや郵送でご案内し、「一度きりではない継続した関わり」の定着を図った。

○報告会・講演会の開催（詳細:表2）

現場の声や活動の成果を直接伝える機会として、報告会や講演会を開催。

＜成果と今後の課題＞

季節募金のリピート率は54%（前年度寄附者の今年度寄附率）で推移しているものの、報告会や講演会の案内が寄附者に確実に届けられていないことから、寄附者に賛助会員に入会いただくというマイルドを持ちながら、オンラインとオフラインを組み合わせる確実に案内を届ける仕組みづくりが必要。また、現在、メールマガジンを配信しているシステムが古く改善が必要なものの、改善が進んでいない。支援者管理システムを活用した配信に早期に切り替え、効果検証をしながら継続寄附者との関係強化につなげていく。

③賛助会員の維持と拡大、参加・支援機会の提供

団体の理念に共感し、継続的に支えてくださる賛助会員の維持と拡大は、安定した事業運営と地域に根ざした活動の継続のために不可欠であり、新規会員の獲得と既存会員との関係深化の両面から取り組みを進めた。

＜主な取り組みと進捗＞

○支部・研修センターでの行事を活用した新規会員獲得

地域ごとの支部活動や研修センターでの行事において、オイスカの取り組みを実際に見て、感じてもらう機会を設けた。行事後には、活動への理解と共感が高まり、新規賛助会員の獲得につながるケースも見られた。

○多様なイベントを通じた理解促進（詳細:表5、6、7、8）

視察ツアーや報告会、講演会といった双方向のコミュニケーションの場を通じて、賛助会員の皆さまに活動の成果を直接お伝えし、「支援してよかった」と実感していただく機会となった。

○広報誌「OISCA」の発行による定期的な情報提供

年6回発行の広報誌では、各地の活動レポートなどを掲載し、活動の幅広さや成果を伝えるとともに、現場やスタッフを身近に感じていただく役割を果たした。

＜成果と今後の課題＞

各種行事や広報活動を通じて、126件の新規賛助会員を獲得。退会数は311件と、前年と比較して抑制傾向にあるものの、会員総数は前年比4.5%減となった。2019年から賛助会員数の減少が続く、2018年度対比16%減少していることから、内部で課題を共有し、解決策をともに考え実施することとする。一方で、全国には会員数を維持、増加させている支部もあるため、支部間の情報共有を密にし、好事例を全国に拡大させる。既存の賛助会員一人ひとりとのつながりをより丁寧に築き、行事への参加を促すなど、会員継続の感謝を伝える機会の充実を図っていく。

④大口支援者の維持・拡大

大口支援者との信頼関係の維持・発展は、持続可能な事業運営において極めて重要。長期的なパートナーシップを築くことを目指し、事業の報告とともにお礼を丁寧に伝えるなどのコミュニケーションを大切にしている。

<主な取り組みと進捗>

手書きのメッセージを添え、年間のご支援のお礼としてカレンダーを送付するなど、個別での丁寧な対応を行った。

<成果と今後の課題>

一方通行のコミュニケーションを進化させ、一人ひとりの関心分野に応じた報告や情報提供ができるよう関係の深化に努める。

【表 3】<数値資料>

内 容	2023 年度実績	2024 年度目標	2024 年度実績	目標対比
オンラインイベント参加者数	188 人	300 人	416 人	139%
ホームページユーザー数	88,024 人	100,000 人	139,353 人	139%
ホームページからの入会・寄付者数	入会 11 人 寄附 174 人	入会 30 人 寄附 200 人	入会 26 人 寄附 158 人	入会 87% 寄附 79%
Facebook フォロワー数	3,474	4,000	3,870	97%
X フォロワー数	1,686	1,800	1,736	96%
Instagram フォロワー数	564	700	646	92%
YouTube チャンネル登録者数	1,269	1,500	1,376	92%
YouTube 視聴回数	12,439 回	15,000 回	14,234 回	95%
メールマガジン登録者数	1,494	1,800	1,465	81%
マスメディア露出回数	23 回	30 回	30 回	100%
夏募金 寄付金額 件数	9,160,493 円 480 件	7,000,000 円 440 件	9,792,311 円 402 件	140% 91%
冬募金 寄付金額 件数	8,396,275 円 445 件	9,000,000 円 554 件	8,328,433 円 465 件	93% 84%
クラウドファンディング(タイ) 寄付金額	—	3,000,000 円	2,750,000 円	92%

(2) 法人支援者の維持・拡大

当団体は、法人支援が 6 割をしめ、持続可能な活動の財政的基盤であるとともに、オイスカの理念や活動を社会に広く伝えるパートナーである。既存の法人支援者との関係を継続・強化しながら、新たな法人支援者との接点創出に向けた広報・営業活動を推進した。

<主な取り組みと進捗>

日頃のコミュニケーションや活動報告を通じて、既存法人会員との信頼関係の維持を図るとともに、新規支援や支援拡充の可能性を模索。本部の主催で法人担当者向けのトークイベントを 1 回、講演会を 1 回開催し、活動への理解深化に努めた。また、法人の担当者などが気軽に活動を把握できるよう、SNS や Web サイトの閲覧を勧め、オンライン上での情報接触の促進を図った。

＜成果と今後の課題＞

法人営業の人的リソースや営業用資料の整備に課題があり、対応力の底上げが引き続き求められる。今後は、企業や団体との関係構築の質をさらに高め、「共に価値を創る」パートナーとしての位置づけを確立していきたい。

（３）全役職員・全国組織役員（財団・支部・推進協議会）一体となったファンドレイジング

オイスカの全国組織が一体となり、ファンドレイジングへの理解と主体的な関わりを深めていくことは、継続的な支援基盤を築く上で欠かせない。そのために、情報の共有、役職員の意識づくり、現場とのつながりの強化を意識的に行った。

＜主な取り組みと進捗＞

○組織内での進捗共有と理解の促進

理事会・評議員会・顧問参与懇談会、全国支部・推進協議会の役員会などを通じて、ファンドレイジングの現状や進捗を報告し、主体的に関わっていただける土台づくりを実施。また、本部内の企画調整会議や部課長会議では、全国組織の重要データや現場の声を共有し、組織全体の一体感醸成に努めた。

○職員向けの継続的な学びの場の提供

職員のファンドレイジングや広報に関する知識の底上げを図るため、オイスカアカデミーと称した勉強会を20回実施。海外プロジェクトの最新状況や国内各拠点の取り組み、予算や決算状況の説明、ファンドレイジング施策などの実務とつながる内容を共有した。

○巻き込み強化

季節募金やクラウドファンディングの実施にあたり、全国の組織・関係者に対し、案内・拡散・支援協力を依頼。地域や立場を越えて連携する土台づくりに取り組んだ。

＜成果と今後の課題＞

支援者との橋渡し役として、全国各支部でもクラウドファンディングや季節募金の紹介を自主的に行う事例が増えている。

一方で、情報量や施策が多岐にわたるため、組織全体の理解度や関わり方には濃淡があり、参加のハードルを下げる工夫が求められていると感じる。

今後は、事例共有などを通じて全国支部の貢献を可視化し、「一体感」の醸成に努めていく。

（４）広報

オイスカの活動や理念をより多くの人に届けることは、支援の輪を広げ、持続的なファンドレイジングにつながる重要な基盤となる。2024年度は、広報の人的リソース不足により、当初の計画どおりの実施が難しかったが、2025年度は支部も巻き込んだ戦略的広報を実現させるべく、コミュニケーションを密にする。

＜主な取り組みと進捗＞

○積極的なプレスリリースとメディア露出の促進

支部により濃淡はあるものの、メディアとのつながりでいくつかの媒体での掲載につながり、活動の認知拡大と信頼性向上に寄与。テレビ朝日「報道ステーション」のアラル海特集でウズベキスタン沙漠化防止プロジェクトについて10分にわたり報道された。

○企業・団体と連携した内部広報の充実

企業の社内ポータルでオイスカとの協働事業やイベントの告知をしてもらうよう働きかけを行い、参加や認知拡大につながった。

○ファンドレイジングを意識した広報戦略の実践

ただ情報を届けるのではなく、「誰に・何を伝えて・どう動いてほしいか」を明確にした広報を展開。SNS やメールマガジンでも募金ページへの誘導や事例の紹介を組み込み、行動喚起を意識した。

○ホームページの更新とアクセス分析に基づく改善

イベント実施前は SNS での発信を強化するため、アクセス数が増える傾向にあった。前年度と比較し、アクティブユーザー数が 158%に上昇。ある特定のブログの閲覧数が全ページの中で上位に入っており、Google 検索上位にランクするページの存在が全体のアクティブユーザー数を押し上げている。

<成果と今後の課題>

各支部のネットワークでメディア掲載につながる事例が多くある一方で、支部間に掲載数に差があることから、メディアへのアプローチ方法について好事例を共有することで、さらなる露出につなげる。Web サイト訪問数は増加傾向にあり、分析し傾向を応用することでリーチできていない層に届く広報を実施していく。一方で、メールマガジンは内容や発信方法にまだ工夫の余地があることから、優先順位を高めて改善していく。

3. 森林整備活動

オイスカが進める森林整備活動等は、企業と協働し、植栽、間伐といった地域のニーズに即した森林整備や里山再生活動を行っている。同時に日本の林業を支え、持続可能な社会を目指すために国産木材の利用や森林の活用を促進すると共に、その循環の仕組みづくりに取り組んでいる。

	2024 年度計画	2024 年度実績
参加人数	3,670 人	3,428 人

(1) 持続可能な森林経営を通じた地球環境の保全

【表 4】①企業等との協働による森林保全活動

事業名	実施月	活動内容	参加者数	活動場所
北海道地区「緑の募金」協定による募金推進活動 公益社団法人森と緑の会	5, 6 月	社内での緑の募金実施	法人 5 社	法人会員の社内
国際森林デー 2025 in TOKYO	3 月	「葛ツル除去作業」を予定していたが、悪天候のためセレモニーのみ実施	60 名	海の森公園
富士山の森づくり	通年	獣害ネット補修作業、ウグイス生息数調査など	延べ 750 名	山梨県鳴沢村
甲州市・オルビスの森づくり	11 月	植栽、森の散策、ステージ塗装	14 名	山梨県甲州市
本田技研工業 秩父の森づくり	6, 10 月	下草刈り、補植、現場視察	延べ 89 名	埼玉県秩父市
ライオン山梨の森づくり	4, 5, 7, 10 月	子どもプログラム、木の移植のための掘り取り、植栽、堆肥用落ち葉集め、歩道新設	延べ 210 名	山梨県山梨市

東急ホテルズ グリーンコインの森	6, 11 月	高尾天平での除伐・歩道修繕、植栽、農作業（間引き、土寄せ、収穫）	延べ 100 名	山梨県丹波山村
プロネクサスの森	3 月	植林、ベンチづくり	40 名	山梨県道志村
三菱自動車工業 パジェロの森	4, 10 月	歩道整備、歩道新設、除伐 下草刈り作業、除伐作業	延べ 287 名	山梨県早川町
フォレスターズ・スクール (中部電力㈱)	2 月 1 日	基調講演「森林の働きと間伐の必要性」、間伐体験など	12 名	中部日本 研修センター
四万十よんでん協働の森	10 月 25 日	間伐、紅葉植樹作業	30 名	高知県四万十町
令和 6 年度「香川・よんで ん五色の森づくり活動」	11 月 7 日	紅葉植林地の下草刈り作業	59 名	香川県高松市
九州電力・米作り体験活動	5 月 25 日 9 月 28 日	田植え作業、交流会 稲刈り作業、交流会	各 130 名	西日本 研修センター

【表 5】②全国支部組織の環境保全活動

組織名	事業名	開催日	参加 者数	活動場所
北海道支部	森の保全活動 in えこりん村(春)	5 月 18 日	26 名	えこりん村の森 (恵庭市)
	第 1 回北海道生物多様性の保全活動	5 月 26 日	38 名	有明地区の厚別川周辺 (札幌市)
	第 2 回北海道生物多様性の保全活動	7 月 13 日	28 名	有明地区の厚別川周辺 (札幌市)
	トトロップの森「植樹祭」	10 月 5 日	47 名	野幌森林公園・国有林 (江別市)
	森の保全活動 in 白老(秋)	10 月 19 日	7 名	ポロト湖（白老町）
	森の保全活動 in えこりん村(冬)	1 月 18 日	9 名	えこりん村の森 (恵庭市)
首都圏支部	富士山の森づくり	7 月 6 日	20 名	山梨県鳴沢村
	2024 年「海の森公園」ボランティア	10 月 26 日	27 名	「海の森公園」
富山県支部	緑の里山保全の森づくり活動	5 月 25 日 6 月 9 日 7 月 27 日 9 月 28 日	延べ 170 名	天林地区 (富山県中新川郡)
静岡県支部	富士山の森づくり	7 月 6 日	11 名	山梨県鳴沢村
愛知県支部	「オイスカの森」環境保全活動	7 月 20 日	10 名	愛知県設楽町
豊田 推進協議会	富士山の森づくり	7 月 6 日	10 名	山梨県鳴沢村
	農業ボランティア	5 月 25 日 6 月 8 日 7 月 13 日 8 月 10 日 9 月 14 日 10 月 19 日 11 月 9 日 12 月 14 日 1 月 18 日 3 月 22 日	延べ 371 名	センター圃場
	海岸林再生プロジェクト	11 月 11, 12 日	17 名	宮城県名取市
三重・みよし 推進協議会	海岸林再生プロジェクト	9 月 7, 8 日	13 名	宮城県名取市

関西支部	海岸林再生プロジェクト	9月21日	20名	宮城県名取市
広島県支部	オイスカ広島の森づくり活動	5月25日	30名	廿日市市吉和 県立もみのき森林公園
	山・林・SUN活動	7月27日	59名	
四国支部	海岸林再生プロジェクト	11月11日	7名	宮城県名取市
	山・林・SUN体験 in 尾の瀬山 「オイスカ憩いの森」	11月24日	75名	尾の瀬山（まんのう町）
		1月23日	10名	
		3月18日	16名	
愛媛県 推進協議会	Mt. LOVE10	5月27日 5月30日 7月28日 10月26日 11月10日 11月11日 12月15日 12月16日 2月22日 3月17日	延べ 134名	忽那山（松山市）
西日本支部	梅の木選定作業	12月5日	100名	福岡城公園（福岡市）
	宝珠山百年の森づくり植林活動	11月23日	50名	東峰村（朝倉郡）
	海岸林再生プロジェクト	1月24日～ 26日	2名	宮城県名取市
	虹の松原清掃活動	2月22日	40名	佐賀県唐津市
朝倉 推進協議会	桜の植樹	3月9日	約170名	福岡県朝倉市



緑の里山保全の森づくり活動（富山県支部）



北海道生物多様性の保全活動（北海道支部）



富士山の森づくり（山梨県・首都圏・静岡県・愛知県支部）

4. 各種体験活動

【表6】(1) イベント・交流会への参加、実施

組織名	事業名	開催日	参加者数	場 所
北海道支部	「子供の森」計画 子ども親善大使の招聘・交流	5月14日～ 19日	178名	厚別西小学校、 和光小学校ほか
	設立40周年記念 北海道 「子供の森」計画チャリティー ディナーコンサート	11月18日	202名	札幌パークホテル (札幌市)
	オイスカ北海道の存続課題と 将来を語る会および懇親会	3月24日	23名	札幌パークホテル (札幌市)
首都圏支部	第6回ふるさと和泉・みんなの 夏祭り2024	8月3日	3500名	杉並区立「和泉学園」
	国際協力活動支援「チャリティ バザー」	9月28日	70名	東京本部
	豊洲市場「ゴミ0デー」	10月19日	100名	豊洲市場構内
	「豊洲市場まつり2024」	11月3日	多数	豊洲市場6街区
山梨県支部	早川町山菜まつり	5月3日	多数	早川町民スポーツ広場 (早川町)
	早川町紅葉と食まつり	10月27日	多数	
	第77回富士登山競争	7月25,26日	多数	富士北麓公園(富士吉田市)
	UTYエコフェス	10月19日	多数	UTY山梨(甲府市)
	SAIKO HARVEST FESTA 西湖収穫祭	11月2,3日	多数	アミューズビレッジ広場 (富士河口湖町)
	MORIKATSU	11月17日	2000名	塩山ふれあい館(甲州市)
	甲府市SDGsクリスマス会	12月8日	多数	甲府市役所(甲府市)
	木コレ2024	12月19,20日	多数	東京ビックサイト(江東区)
富山県支部	チャリティゴルフコンペ	11月3日	36名	呉羽カントリークラブ (富山市)
半田推進協議会	研修生との国際交流会	5月15日	30名	ステーキハウス森牧場
安城推進協議会	親睦ゴルフ大会	6月13日	20名	葵カントリークラブ
知立推進協議会	チャリティバザー	6月1日	30名	ヴィラトピア知立(知立市)
	知立福祉祭り	10月2日	100名	パティオ池鯉鮒(知立市)
岐阜県支部	「子供の森」計画 コーディネーター研修受入れ	10月24,25日	10名	ぎふ木遊館、岐阜県森林ア カデミー、アクアととぎふ 他
関西支部	ワンワールドフェスティバル	2月8,9日	多数	梅田スカイビル
広島県支部	四国・中部日本研修センター研 修生の広島研修受入	11月19,20日	19名	広島平和記念資料館、宮島
四国支部	かがわ国際フェスタ2024	10月14日	多数	アイパル香川(高松市)
	チャリティゴルフコンペ	11月15日	54名	高松グランドCC
	チャリティゴルフ大会	3月21日	75名	高松カントリー倶楽部
中讃推進協議会	丸亀お城まつり	5月3,4日	多数	丸亀城
	交流会	12月3日	12名	オークラホテル丸亀
高松推進協議会	高松・夏のバーベキュー交流会	7月21日	67名	仏生山の森(高松市)
	第29回高松秋のまつり 仏生山大名行列	10月19,20日	多数	仏生山公園(高松市)

	令和6年度 高松市環境活動展	10月30日 ～11月5日	多数	市民交流プラザ (瓦町FLAG8階)
香川東推進協議会	造田小学校国際交流	11月5日	30名	造田小学校(さぬき市)
高知県推進協議会	四万十川「よんでんの森」体験 学習	10月25日	20名	高知県リバーパーク轟
徳島県推進協議会	とくしままちなか花ロード Project	9月21日	多数	藍場浜公園(徳島市)
西日本支部	田植え交流会	6月1日 6月3日 6月6日 6月8日	延べ 385名	センター圃場
	オイスカ農産物販売会	7月4,5日 7月6日 7月11日 11月26日 11月27,28日	多数	福岡県庁ロビー 田隈公民館 福岡市役所前 福岡市役所前 福岡県庁ロビー
	地球体験村	7月25～27日	30名	センター内
	サマーナイトフェスティバル	8月24日	1000名	センター内
	岩田産業社員宿泊研修 九電生協宿泊研修 長崎県立大学学生宿泊体験 ガールスカウト宿泊研修	5月31日,6月 1日 10月17～19日 3月4,5日 3月22,23日	3名 4名 5名 21名	西日本センター
	大野城国際交流協会 交流会 アトリエ木下 交流会 オイスカ高校 交流会 福岡農業高校 交流会 福岡教育大附属中学校 交流会 鹿本農業高校 交流会 唐津南高校 交流会	6月29日 9月4日 12月6日 12月12日 1月8,21日 1月9日 2月22日	30名 70名 150名 40名 130名 40名 40名	センター内 センター内 センター内 高校内(太宰府市) 中学校内(福岡市) 高校内(熊本県山鹿市) 高校内(佐賀県唐津市)
	稲刈り大会	10月5日 10月10日	110名	センター圃場
	芋掘り交流会	10月29日 10月30日 11月21日	延べ 95名	センター圃場
	もちつき大会	11月16日 12月21日 12月25日 12月28,29日	延べ 530名	脇山小学校(福岡市) 西日本センター(福岡市) 若竹保育園(春日市) ワッキー主基の里(福岡市)
	チャリティゴルフコンペ	2月9日	55名	伊都ゴルフ倶楽部
	収穫感謝祭	11月9日	1800名	センターグラウンド



中部・四国研修センター視察受入（広島県支部） 「子供の森」計画コーディネーター研修受入れ（岐阜県支部）

【表7】（2）海外現場視察・ツアー開催

組織名	期 間	人数	訪 問 先
北海道支部	2月3日～7日	6名	フィリピン アブラ州
	3月6日～14日	4名	ウズベキスタン カラカルパクスタン
山梨県支部	9月25日～10月2日	7名	フィジー共和国 ビチレブ島
富山県支部	8月4日～8月8日	25名	モンゴル エルデネット
静岡県支部	7月24日～7月28日	11名	モンゴル
	11月14日～11月23日	1名	インド
関西センター 広島県支部	8月24日～31日	18名 (6名)	フィリピン アブラ州・南イロコス州
西日本支部	8月16日～22日	7名	マレーシア サバ州
佐賀推進協議会	8月3日～8日	12名	モンゴル エルデネット
茨城推進協議会	9月4日～8日	3名	フィリピン 西ネグロス州
	2月16日～3月1日	12名	



フィリピン植林フォーラム（関西センター・広島県支部）



地球環境再生植林フォーラム（山梨県支部）



オイスカ・ふれあいの翼 2024 マレーシア・サバ州ツアー（西日本支部）

（3）森のつみ木広場、木育推進事業

国産材のつみ木やおもちゃを使った遊びの機会を提供し、子どもたちが木に親しみ、森の大切さを感じられるようにする「木育事業」を通じて、持続可能な森林保全や活用につなげるための啓発活動を行っています。ワークショップ形式で行う「つみ木広場」では、つみ木の材料となる森の木についての話から始まり、つみ

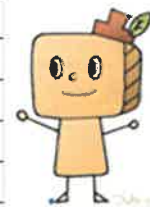
木を使った街づくりへと発展していきます。子どもたちにとっては楽しい遊びの時間であると同時に、親子で環境について学ぶ大切な機会となっています。令和6年度は全国の支部や支援組織などで約50回開催されました。

こうした活動や連携の実績をもとに、現在は森林環境譲与税を活用した自治体への木育事業導入を働きかけしています。また、地域において木育事業を継続的に実施できる仕組みづくりの一環として、大人を対象に木の魅力や森の循環、木材の活用、ワークショップの運営方法などを学ぶ「木育スクール」も開始しました。今後は、こうした取り組みを通じて、木育事業のさらなる拡大を目指しています。

【表8】

組織名	開催日	開催場所・イベント名 等
北海道支部	12月4日	札幌市立元町北小学校 第56回森のつみ木広場
首都圏支部/ 山梨県支部	9月12日	豊洲めぐみこども園「森のつみ木広場」
	11月15日	中央区立中央幼稚園「森のつみ木広場」
山梨県支部	6月21日	山梨保育園 森のつみ木広場・おもちゃ広場（山梨市）
	6月25日	八幡保育園 森のつみ木広場・おもちゃ広場（山梨市）
	6月29日	Moku iku isuzu 森のつみ木広場・おもちゃ広場（藤沢市）
	7月20日 2月1日	西柴保育園 森のつみ木広場・おもちゃ広場（横浜市）
	8月21日 ～26日	岡島百貨店 木育キャラバン（甲府市）
	9月21日	国際平和デー 森のつみ木広場・おもちゃ広場（北杜市）
	11月17日	塩山ふれあい館 森のつみ木広場・おもちゃ広場（甲州市）
	11月30日	つつじヶ崎学園 森のつみ木広場・おもちゃ広場（甲府市）
	12月7日	横濱ファミリーデー（横浜市）
	12月15日	おやこでeco たいけんスペシャル！ ～木育ひろば・たくさんをつみ木で遊ぼう～（港区）
	12月16日	能登震災支援 森のつみ木広場（珠洲市）
	1月21日	水元幼稚園 森のつみ木広場（葛飾区）
	2月22, 23日	木育キャラバン in 山梨県立科学館（甲府市）
	5月15日 6月6日	甲運小学校 環境学習授業・体験学習（甲府市・鳴沢村）
	6月1日	オルビスの森 神金小学校 環境教育活動への協力（甲州市）
	6月9日	LAKE YAMANAKA FESTIVAL おもちゃ広場（山中湖村）
	7月7日	YBS 山梨放送 おもちゃ広場（甲府市）
	7月30日	産業貿易センター 木育スクール（横浜市）
	8月3日	「こどもフェスタ」おもちゃ広場（山梨市）
	8月28日	やまなし地域づくり交流センター 木育スクール（甲府市）
	11月10日	中区民まつり「ハローよこはま」おもちゃ広場（横浜市）
	1月16日	丹波山村役場 おもちゃ広場（丹波山村）
	12月15日 3月16, 17日	能登震災支援 おもちゃ広場・木育スクール（野々市市・金沢市）
山梨県支部/ 静岡県支部	10月12日	静岡市まちづくり公社 森のつみ木広場（静岡市）
	10月13日	㈱アウン清水 森のつみ木広場（清水市）
	2月18日	安倍口小学校 森のつみ木広場（静岡市）

富山県支部	8月4日	「ゼロニイめぐるマルシェ」森のつみ木体験広場（射水市）
	10月12,13日	「とやま環境フェア 2024」森のつみ木体験広場（富山市）
丹羽 推進協議会	5月8日	大口町北保育園「つみ木広場」
	6月12日	扶桑町高雄西保育園「つみ木広場」
	7月8日	大口町保育園「つみ木広場」
	9月6日	大口町西保育園「つみ木広場」
	10月16日	扶桑町高雄南保育園「つみ木広場」
	11月5日	大口町南保育園「つみ木広場」
	12月16日	扶桑町柏森南保育園「つみ木広場」
	2月25日	江南市古知野北保育園「つみ木広場」
	3月19日	扶桑町扶桑幼稚園「つみき広場」
安城 推進協議会	6月21日	さくら学園第二慈恵幼稚園「つみき広場」
	7月23日	さくら学園慈恵幼稚園「つみき広場」
	10月6日	安城商工会議所「元気っこフェスタ」
四国支部	7月30日	庵治小学校放課後児童クラブ 環境学習自演事業・つみ木広場（高松市）
	8月1日	四国研修センター 環境学習支援事業・つみ木広場（綾川町）
	8月7日	飯野コミュニティセンター 環境学習支援事業・つみ木広場（丸亀市）
	8月17日	円座コミュニティセンター 子どもSDGs「円っこひろば」（高松市）
	8月21日	川東コミュニティセンター 環境学習支援事業・つみ木広場（高松市）
	9月3日	屋島東コミュニティセンター 環境学習支援事業・つみ木広場（高松市）
	11月9日	林コミュニティセンター 環境学習支援事業・つみ木広場（高松市）
	3月2日	Pikara スタジアム カマタマーレ讃岐ホーム公式戦の試合会場を活用した木工工作・キャンピングイベント等ワークショップの実施（丸亀市）
西日本支部	8月5日	福岡市立百道小学校留守家庭こども園 つみ木広場
	8月6日	福岡市立青葉小学校留守家庭こども園 つみ木広場
	8月7日	福岡市立奈多小学校留守家庭こども園 つみ木広場
	8月8日	福岡市立百道浜小学校留守家庭こども園 つみ木広場



つみ木広場（丹羽推進協議会（愛知県支部））



とやま環境フェア 2024（富山県支部）

5. 東日本大震災復興支援事業

【 海岸林再生プロジェクト 第2次10ヵ年計画(2021-2030) 】

2024年度も、プロ約600名とボランティア約1,200名によって、葛・藤などのツル切り・外来種ニセアカシアなどの除伐、排水路修復・新設、本数調整伐(間伐)、作業道維持管理、生長モニタリング・本数調整伐調査、マツケムシ等害虫駆除、マツクイムシ被害防止対策、定期巡視、各種啓発活動等を「無事故」で実施することが出来た。その費用に関しては、当期の寄付金と、これまでの寄付金を積み立てた特定費用準備資金の取り崩しで事業を継続している。その資金が尽き果てるまで、第3次10ヵ年計画(2031-2040)を目標に育林に関わる計画。

海岸防災林における事業規模の本数調整伐は全国初と言われているが、東北被災海岸林の中で、最も早く、順調に実施している。「1伐2残」(33%伐採。汀線に平行に2列残して1列伐採)で、2021年度:10.13ha(2014年植栽地)、2022年度:14.53ha(2014・15年植栽地)、2023年度:25.97ha(2016・17年植栽地)、そして昨年2024年度は16.21ha(2018年植栽地)で実施。名取市海岸林の92%は一度目の伐採を完了した。これを約50年かけて5回繰り返し、5,000本/haを800~1,000本に仕立てる。伐採木は宮城県によって、堆肥、チップ、木質ペレット燃料、バイオマス発電などに100%再利用される。また、名取市海岸林のCO2固定量は606t、93世帯の年間排出量に相当する。

【 啓発普及活動 累計実績 】

*活動報告会・講演会	302回・45,202人(22都道府県)
*日本人視察者	3,765人
*外国人視察者	64ヵ国・298人
*写真パネル展	92回
*国内メディア等紹介	316回
*HPブログ更新	2,826回更新(震災から14年間)
*寄附金募集パンフレット配布数	約29万枚
*寄附者数	2,220人(オイスカ会員3割)
*寄附総額	約9.6億円(うち積立金 約3億円)

【 実績総括表 】

(2025.3.31現在)

		2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	累計	
育苗	播種数	-	97,500	72,500	87,250	89,856	96,400	57,000	45,800	3,000	3,000	-				552,306	粒
	発芽率	-	95	91	94	94	91	96	95	87	93	-				93.3	%
植栽	面積	-	-	-	15.67	10.06	11.00	13.66	16.32	2.00	3.75	-				72.46	ha
	本数	-	-	-	80,182	55,084	56,037	71,945	81,600	6,000	19,350	-				370,198	本
	活着率	-	-	-	98.4	98.0	98.3	99.8	99.8	100.0	100	-				99.2	%
	間伐											10.13	22.78	25.97	16.21	66.84	ha
	総雇用数	-	187	507	1,221	985	1,109	1,309	1,164	814	620	1,148	675	675	569	10,981	人
市民	市民参加	-	-	262	1,365	1,691	1,800	2,096	2,273	1,892	270	313	1,194	1,194	1,223	15,247	人
	視察人数	263	580	837	567	577	183	231	148	73	14	72	103	103	53	3,765	人
	報告会	523	4,772	5,900	4,692	4,996	3,893	5,911	4,178	3,347	1392	3,633	480	480	944	45,202	人
	報告会	4	43	28	30	30	26	30	22	24	11	22	11	11	11	302	回
	メディア	24	39	27	33	38	20	23	21	7	36	22	8	8	3	316	回



名取市海岸防災林 100ha 全景（撮影：2025 年 5 月 左：北端から全景 右：中央部から南端）

6. 国際会議の開催

① 環境教育を基盤とした青少年育成に関する国際会議

開催日：令和 6 年 10 月 9 日（水）

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センター

出席者：11 カ国 55 名

内 容：

各総局からの近況報告、新支局承認のほか、大量生産・大量消費経済の広がりとともに環境問題や貧富の差が深刻化する中、オイスカで学んだ各国の青年たちの知識や技術を活用し、「産業開発」をベースにした「社会に貢献するビジネス」を起こす展望などが議論された。

② 東京フォーラム（国際協力活動推進意見交換会）

開催日：令和 7 年 2 月 27 日（木）

場 所：衆議院第一議員会館 国際会議室

出席者：11 カ国 15 名

内 容：

オイスカが活動しているアジア・太平洋地域のうち、11 カ国の大使館から 4 名の大使をはじめとする 15 名の外交官を迎え開催した意見交換会。日本と同じ島国の外交官からは、極めて低い食糧自給率が課題であり、農業の普及、振興や、そのための人材育成に取り組むオイスカへの期待が寄せられた。また、各国での諸活動への資金獲得についても意見交換が行われ、外務省 NGO 協力推進室の岩上室長が紹介した外務省の日本 NGO 連携無償資金協力に対する関心が寄せられた。

5. 収益事業

総 括

当法人所有の固定資産の有効活用や公益目的事業と位置付けられない受託事業等を実施、利益の100%を公益目的事業に資した。

1. 不動産等の賃貸収益

- (1) 所在地：福岡県福岡市内浜一丁目 560 m²

貸与先：三菱UFJリース（株）

※事業用定期借地権設定契約

- (2) 所在地：東京都杉並区和泉三丁目6-12

賃貸物件名：オイスカハウス永福町 752.20 m² (25戸分賃貸面積)

管理委託先：京王不動産（株）

※賃貸運営管理業務委託契約

- (3) 所在地：東京都杉並区和泉二丁目17-5

賃貸物件名：オイスカ国際協力総合センター1階 329.81 m²

貸与先：株式会社ディアログ

※普通賃貸契約

- (4) 所在地：東京都杉並区和泉三丁目6-12

賃貸物件：オイスカハウス永福町駐輪場 4.00 m²

貸与先：(株) ループ

※Port 設置保管場所契約

2. 農場管理受託収益

- (1) 委託場所：愛知県豊田市勘八町（豊田市旧畜産センター） 58,371 m²

管理棟及び農場等の管理

委託者：豊田市

※業務委託契約

6. 組織の運営

令和6年度においては評議員会を1回、理事会を4回開催し、健全な運営に努めた。
会議、役員、職員に関する件は次のとおりである。

1. 会議の開催

(1) 評議員会

①令和6年度定時評議員会

日時：令和6年6月25日(火) 12:30～14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第二会議室

議題：

第1号議案：令和5年度事業報告・決算書類(案)について

第2号議案：任期満了に伴う評議員の選任(案)について

報告事項

- ・令和6年度事業計画・予算について
- ・令和5年度特定資産等の資金運用状況

(2) 理事会

①令和6年度第1回理事会

日時：令和6年6月6日(木) 12:15～14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第八会議室

議題：

第1号議案：令和5年度事業報告・決算書類(案)及び監査報告

第2号議案：令和5年度新規賛助会員の承認(案)について

第3号議案：令和5年度国際協力活動推進基金明細書について

第4号議案：任期満了に伴う評議員候補の推薦(案)について

第5号議案：支部会長の選任(案)について

第6号議案：参与の委嘱(案)について

第7号議案：国際協力活動推進基金への新規組み入れ(案)について

第8号議案：令和6年度定時評議員会の開催(案)について

報告事項

- ・令和5年度特定資産運用状況について
- ・代表理事・業務執行理事の業務報告

②令和6年度第2回理事会（書面審議）

日時：令和6年7月5日(金)

議題：

第1号議案：中村茂樹（公財）SOMPO 環境財団専務理事への参与委嘱（案）
について

③令和6年度第3回理事会

日時：令和6年12月19日(木) 12:30～14:00

場所：衆議院第一議員会館 地下1階 第六会議室

議題：

第1号議案：令和7年度事業計画・予算編成方針（案）について

第2号議案：「国際協力活動推進基金」への新規不動産組み入れ変更（案）について

第3号議案：旧オイスカ青森県国際交流会館の対応について

第4号議案：資金運用の追加商品（案）について

第5号議案：オイスカ松島推進協議会設立承認（案）について

第6号議案：岡山推進協議会の名称使用取り消し（案）について

報告事項

・代表理事、業務執行理事の業務報告

④令和6年度第4回理事会

日時：令和7年3月5日(水) 12:30～14:00

場所：衆議院第二議員会館 地下1階 第八会議室

議題：

第1号議案：令和6年度補正予算(案)について

第2号議案：令和7年度事業計画・予算(案)について

第2号議案①特定寄附金募集目論見書

第2号議案②特定資産取崩し、積立計画（案）

第2号議案③借入限度額の設定

第2号議案④資産運用方針及び計画（案）

第2号議案⑤資金調達及び設備投資の見込みについて

第3号議案：規則の一部改正（案）について

第4号議案：2024年公益法人制度改革への対応（案）について

第5号議案：令和7年度定時評議員会の開催(案)について

2. 役員

令和7年3月31日現在における当法人の役員等は次の通りである。

会 長

渡辺 利夫 拓殖大学顧問

(1) 評議員

No.	氏 名	役 職
1	赤 阪 清 隆	元国連広報担当事務次長
2	岡 田 康 男	弁護士
3	神 野 重 行	三重産業(株) 代表取締役
4	佐 伯 勇 人	四国電力(株) 取締役会長

5	佐藤 百合	(独法) 国際交流基金 理事
6	篠塚 徹	拓殖大学北海道短期大学 学長
7	進士 五十八	福井県政策参与
8	中村 利雄	(公財) 全国中小企業振興機関協会 会長
9	ペマ・ギャルポ	拓殖大学 国際日本文化研究所 客員教授
10	森本 英香	早稲田大学法学部 教授 / 元環境事務次官
11	マリ クリスティ・ヌ	東京女子大学 現代教養学部 教授

(2) 代表理事

No.	氏名	役職
1	中野悦子	理事長
2	廣瀬道男	副理事長

(3) 業務執行理事

No.	氏名	役職
1	永石安明	専務理事
2	森田章	常務理事

(4) 理事

No.	氏名	役職
1	石井 淑雄	(株)石井 代表取締役会長
2	瓜生 道明	西日本支部会長 九州電力(株)代表取締役会長
3	樋泉 克夫	愛知県立大学 名誉教授
4	光岡 保之	愛知県支部 会長
5	湧井 敏雄	首都圏支部会長、前神奈川経済同友会専務理事

(5) 監事

No.	氏名	役職
1	神山 敏夫	税理士・公認会計士
2	梶川 幹夫	元財務省 関税局長

(50 音順)

(6) 顧問

No.	氏 名	役 職
1	荒 木 光 弥	国際開発ジャーナル編集主幹
2	太 田 猛 彦	東京大学名誉教授
3	苅 田 知 英	中国電力（株）相談役
4	小 林 健	日本商工会議所会頭
5	篠 沢 恭 助	(公財)資本市場研究会顧問
6	新 木 富 士 雄	北陸電力(株)名誉顧問
7	十 倉 雅 和	(一社)日本経済団体連合会長
8	新 浪 剛 史	(公社)経済同友会代表幹事
9	廣 野 良 吉	成蹊大学名誉教授
10	榊 本 晃 章	(一財)日本原子力文化財団理事長
11	松 尾 新 吾	九州電力(株)特別顧問

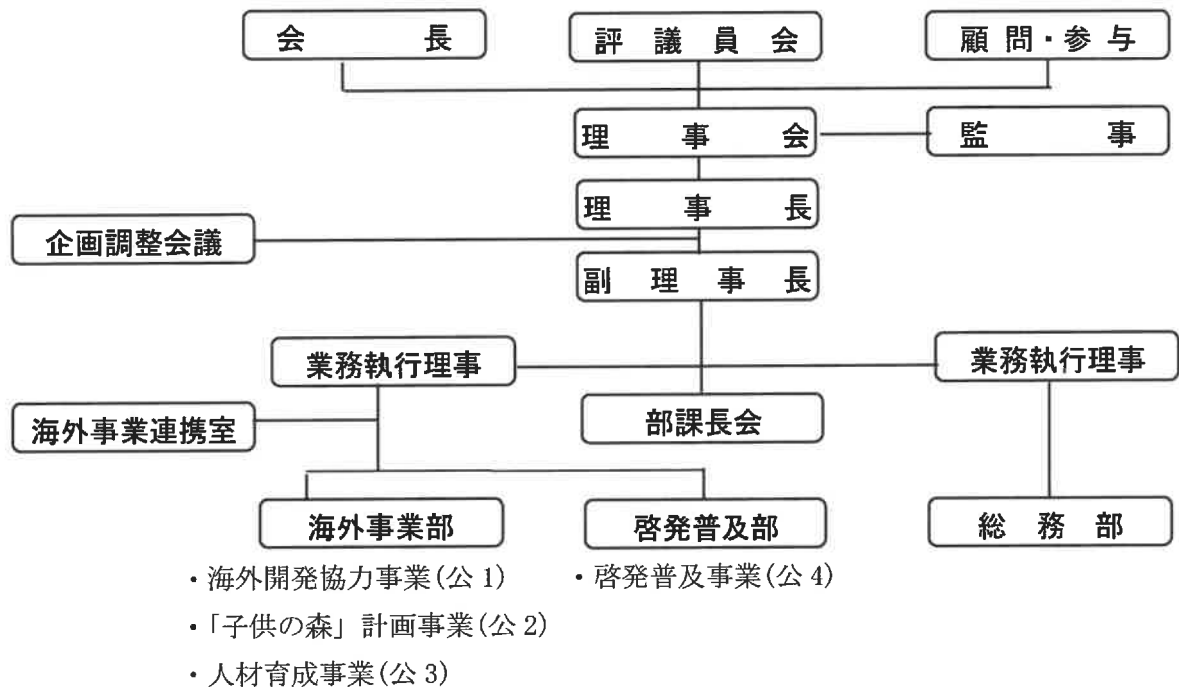
(7) 参与

No.	氏 名	役 職
1	泉 雅 文	四国支部会長
2	上 村 良 成	関西支部会長
3	逢 見 直 人	(公財) 富士社会教育センター理事長
4	岡 本 知 之	(学) 中野学園オイスカ浜松国際高校校長
5	小 川 信 也	岐阜県支部会長
6	落 合 偉 洲	静岡県支部会長
7	亀 井 文 行	宮城県支部会長
8	木 島 正 芳	元東京入国管理局長
9	久 和 進	富山県支部会長
10	黒 柳 俊 之	元(独)国際協力機構理事
11	小 林 泉	大阪学院大学国際学部教授
12	茂 田 和 彦	(公社)大日本山林会監事
13	清 水 光 朗	長野県支部会長
14	杉 下 恒 夫	(一財)国際開発機構理事長
15	中 村 陽 子	NPO 法人メダカのがっこう理事長
16	中 村 茂 樹	(公財)損保ジャパン環境財団専務理事
17	棚 田 健 司	広島県支部会長
18	宮 嶋 嘉 則	CELCO JAPAN 特別顧問
19	宮 島 雅 展	山梨県支部会長
20	山 下 雅 子	社会保険労務士
21	横 山 清	北海道支部会長

(50 音順、令和 7 年 3 月 31 日現在)

3. 事務機構及び職員

(1) 機構図



〈令和7年3月31日現在〉

(2) 職員

令和7年3月31日現在における本法人職員(パート職員含む)は次のとおりである。

職員	職員数
事務所	
本部(海外赴任者含む)	35
西日本研修センター	12
中部日本研修センター	16
四国研修センター	8
関西研修センター	2
地方組織	14
合計	87

令和6年4月1日～令和7年3月31日 賛助会員数の動向と会費入金額
会員の動向

	期首会員数			期末会員数			期首と期末 の増減数	
	合計 件数	法人 個人		合計 件数	法人 個人		法人 個人	
本部直轄	150	35 115		148	31 117		-2 2	
北海道支部	76	56 20		78	56 22		2 2	
宮城県支部	187	109 78		173	101 72		-8 -6	
首都圏支部	309	139 170		301	128 173		-8 3	
山梨県支部	81	39 42		74	38 36		-1 -6	
長野県支部	101	47 54		91	44 47		-3 -7	
富山県支部	125	79 46		120	78 42		-1 -4	
静岡県支部	198	68 130		196	69 127		1 -3	
愛知県支部	836	280 556		777	260 517		-20 -39	
岐阜県支部	113	32 81		106	29 77		-3 -4	
関西支部	76	32 44		79	34 45		2 1	
広島県支部	68	43 25		68	41 27		-2 2	
四国支部	815	210 605		775	201 574		-9 -31	
西日本支部	728	304 424		705	310 395		6 -29	
合計	3,863	1,473 2,390		3,691	1,420 2,271		-53 -119	

会費入金額(千円)

	令和5年度入金額			令和6年度入金額			前年度との 差額	前年比
	法人 個人			法人 個人				
	4,574	2,120 2,454		4,121	1,740 2,381		-453	90.1 %
	2,660	2,280 380		2,730	2,280 450		70	102.6 %
	7,175	5,600 1,575		7,015	5,360 1,655		-160	97.8 %
	14,140	10,470 3,670		14,030	10,360 3,670		-110	99.2 %
	2,480	1,710 770		2,374	1,670 704		-106	95.7 %
	2,928	1,900 1,028		2,808	1,900 908		-120	95.9 %
	4,845	3,940 905		4,750	3,900 850		-95	98.0 %
	6,869	4,480 2,389		6,914	4,570 2,344		45	100.7 %
	24,105	13,600 10,505		22,854	13,000 9,854		-1,251	94.8 %
	3,350	1,730 1,620		3,134	1,610 1,524		-216	93.6 %
	3,148	2,180 968		3,402	2,430 972		254	108.1 %
	2,770	2,240 530		2,725	2,160 565		-45	98.4 %
	21,703	9,990 11,713		21,176	9,630 11,546		-527	97.6 %
	24,055	15,260 8,795		24,727	16,350 8,377		672	102.8 %
	124,802	77,500 47,302		122,760	76,960 45,800		-2,042	98.4 %

附属明細書

令和7年3月

公益財団法人オイスカ

なお、令和6年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。